２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	キャリアプランニングⅠ （ Carrier Planning Ⅰ ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	村上　弘志/後藤　博美
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日3時限/金曜日1時限

【授業の学習内容】

本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道をみつけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。

【到達目標】

・セルフマネジメント（自己理解）を実践できる。
・チームマネジメント（協働作業）を実践し、集団での役割を果たすことができる。
・自己の働く意義（勤労観・職業観）を説明できる。
・目指す動物業界を理解し、その特徴を説明できる。
・自己実現（夢をかなえる）のための目標設定をし実践できる。

授業計画・内容	
1回目	集団（クラス）づくりの理解と実践　1年間の流れ確認（学生便覧）、クラス規範確認・目標決め①、学習能力チェックプログラム
2回目	セルフマネジメント①　1週間の振り返り、「習慣」プリント配布～8つの習慣～、クラス目標決め②
3回目	セルフマネジメント②　GWの過ごし方～1週間をどう過ごすのか～、安全講習～動画（サイバー犯罪編）～
4回目	セルフマネジメント③　GWの振り返り
5回目	チームマネジメント①　学園祭準備活動①
6回目	チームマネジメント②　学園祭準備活動②、日常行動スコア～クラスの中の自分の役割を知る～
7回目	グループワーク①　学園祭準備活動③、「ホスピタリティ」について
8回目	グループワーク②　学園祭の振り返り
9回目	グループワーク③　「私は建築家」～聴く力を持つ～
10回目	グループワーク④　夢への一歩を踏み出す勇気を身につける
11回目	グループワーク：成功の原則～卒業生たちから見る行動の原則～、クラス目標の達成度確認
12回目	グループワーク：夏休みの取り組みの振り返りとこれからの目標設定、スポーツフェスタ準備活動①
13回目	夏休みの振り返り、スポーツフェスタ準備活動②
14回目	評価週、解答解説、スポーツフェスタ準備活動③
15回目	前期振り返りと後期に向けての準備、スポーツフェスタ準備活動④
準備学習 時間外学習	・日々の学校生活を記録に残す ・動物業界を知る ・動物施設での校外学習に参加する ・事前課題など各種レポートを書く
評価方法	・集団（クラス）での役割の理解と実践　（50%） ・授業参加状況　（30%） ・期末試験（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

・学生便覧
・Hand－book　of　Life　Style

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	キャリアプランニングⅠ （ Carrier PlanningⅠ ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	村上　弘志/後藤　博美
		授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	月曜日2時限

【授業の学習内容】

本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道をみつけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。

【到達目標】

・セルフマネジメント（自己理解）を実践できる。
・チームマネジメント（協働作業）を実践し、集団での役割を果たすことができる。
・自己の働く意義（勤労観・職業観）を説明できる。
・目指す動物業界を理解し、その特徴を説明できる。
・自己実現（夢をかなえる）のための目標設定をし実践できる。

授業計画・内容	
1回目	自己理解　①　スポーツフェスタの振り返り、後期に向けた目標確認（学生便覧）
2回目	自己理解　②　働く意義（勤労観・職業観）を理解し考える
3回目	自己理解　③　履歴書とは、作成方法
4回目	自己理解　④　半年を振り返って、自己理解のための振り返り及び目標設定
5回目	自己理解　⑤　私の四面鏡～自分の強みを知る～
6回目	企業研究　①　先輩から学ぶ業界研修について
7回目	企業研究　②　卒業生から学ぶ業界研修について
8回目	社会人準備　①　夢をかなえた先輩たちの「行動の原則　＋α」を学ぶ
9回目	社会人準備　②　ガンの群れ～協調性とは～
10回目	「集団での役割」の理解と実践　①　WeareECO準備活動
11回目	「集団での役割」の理解と実践　②　WeareECO準備活動
12回目	「集団での役割」の理解と実践　③　WeareECO準備活動、今年の振り返り～今年の自分を表す漢字を一文字で表現～
13回目	「集団での役割」の理解と実践　④　WeareECO準備活動、今年の個人目標発表
14回目	WeareECO～調べ学習クラス内発表～
15回目	学校生1年間の振り返り
準備学習時間外学習	・日々の学校生活を記録に残す ・動物業界を知る ・動物施設での校外学習に参加する ・事前課題など各種レポートを書く
評価方法	・集団（クラス）での役割の理解と実践　（50%） ・授業参加状況　（30%） ・期末試験（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

・学生便覧
・Hand－book　of　Life　Style

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	プレゼンテーションⅠ （ Presentation Ⅰ ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	榎本　篤子
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日４時限.、金曜日３時限

kinnyoubi

社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。
表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習する。

※担当教員実務経験：国家資格1級キャリアコンサルティング技能士、キャリアカウンセラー。教育機関や国の若者就職支援センターでのキャリア教育、相談に従事。
企業研修や組織でのカウンセリングも行う。コミュニケーションの重要性を重視し、人の成長をサポートする人材教育に幅広く携わっている。

【到達目標】

元気な挨拶ができるようになる。
相手の立場を考えて話す力を身に付けることができる。
文章組み立て力を身に付けることができる。
周りと協力する力を身に付けることができる。
復習力を身に付けることができる。

授業計画・内容	
1回目	授業の内容と意義について
2回目	なぜ学校で学ぶのか？グループワーク討議・伝え方のポイント
3回目	言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて
4回目	表情の意味・視線伝達マーク
5回目	相手意識を持った伝え方自己表現練習
6回目	聞くと聴くの違いと、きき上手のポイント
7回目	他己紹介準備
8回目	他己紹介
9回目	報告の仕方・PREP法を身につける。
10回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション準備
11回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション披露
12回目	言葉遣いと敬語の使い方①グループで美化語見つけ
13回目	言葉遣いと敬語の使い方②敬語を使用しての場面練習
14回目	前期評価テスト
15回目	前期の振り返り、期末テスト返却・解説
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	プレゼン力：40% 傾聴力：30% 筆記試験30%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	プレゼンテーションⅠ （ Presentation Ⅰ ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	榎本　篤子
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日4時限、金曜日３時限

【授業の学習内容】

社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。
表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習する。

※担当教員実務経験：国家資格1級キャリアコンサルティング技能士、キャリアカウンセラー。教育機関や国の若者就職支援センターでのキャリア教育、相談に従事。
企業研修や組織でのカウンセリングも行う。コミュニケーションの重要性を重視し、人の成長をサポートする人材教育に幅広く携わっている。

【到達目標】

前期の目標に続き、更にグループの中の個の役割を果たす努力ができる。
会話力やプレゼンテーション力を磨き現状の自分を知り、自信をもって、主体的に人と関わって行けるようになる。

授業計画・内容	
1回目	後期の目標設定
2回目	ストレス対策　性格の作られ方
3回目	効果的な質問の方法　他己紹介後期編準備
4回目	他己紹介　自己成長評価
5回目	バーバルコミュニケーションとグループワーク
6回目	ノンバーバルコミュニケーションとグループワーク
7回目	中間評価
8回目	仕事遂行能力ペアワーク
9回目	仕事遂行能力グループワーク
10回目	グループワークディスカッションと発表（意見とアイデア）
11回目	グループワークディスカッションと発表（課題解決）
12回目	一年間の成長プレゼン①
13回目	一年間の成長プレゼン②
14回目	後期評価テスト
15回目	後期の振り返り、期末評価試験の返却及び解説
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	プレゼン力：40% 傾聴力：30% 筆記試験30%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	プレゼンテーションⅠ （ Presentation Ⅰ ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田代　マキ
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日、木曜日　5時限

【授業の学習内容】

社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。
表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習する。

※担当教員実務経験：キャリアカウンセラー（技能士2級）、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリヤ教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。

【到達目標】

元気な挨拶ができるようになる。
相手の立場を考えて話す力を身に付けることができる。
文章組み立て力を身に付けることができる。
周りと協力する力を身に付けることができる。
復習力を身に付けることができる。

授業計画・内容	
1回目	授業の内容と意義について
2回目	なぜ学校で学ぶのか？グループワーク討議・伝え方のポイント
3回目	言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて
4回目	表情の意味・視線伝達マーク
5回目	相手意識を持った伝え方自己表現練習
6回目	聞くと聴くの違いと、きき上手のポイント
7回目	他己紹介準備
8回目	他己紹介
9回目	報告の仕方・PREP法を身につける。
10回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション準備
11回目	PREP法を用いての課題プレゼンテーション披露
12回目	言葉遣いと敬語の使い方①グループで美化語見つけ
13回目	言葉遣いと敬語の使い方②敬語を使用しての場面練習
14回目	前期評価テスト
15回目	前期評価テスト
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	プレゼン力：40％ 傾聴力：30％ 筆記試験30％

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	プレゼンテーションⅠ （ Presentation Ⅰ ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	田代　マキ
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日、木曜日　5時限

【授業の学習内容】

社会人としてまた、目指す業界に必要な、伝える力を身につける。
表現力、自己分析力、チームワーク力をワークを中心に学習する。

※担当教員実務経験：キャリアカウンセラー（技能士2級）、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリヤ教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。

【到達目標】

前期の目標に続き、更にグループの中の個の役割を果たす努力ができる。
会話力やプレゼンテーション力を磨き現状の自分を知り、自信をもって、主体的に人と関わって行けるようになる。

授業計画・内容	
1回目	後期の目標設定
2回目	ストレス対策　性格の作られ方
3回目	効果的な質問の方法　他己紹介後期編準備
4回目	他己紹介　自己成長評価
5回目	バーバルコミュニケーションとグループワーク
6回目	ノンバーバルコミュニケーションとグループワーク
7回目	中間評価
8回目	仕事遂行能力ペアワーク
9回目	仕事遂行能力グループワーク
10回目	グループワークディスカッションと発表（意見とアイデア）
11回目	グループワークディスカッションと発表（課題解決）
12回目	一年間の成長プレゼン①
13回目	一年間の成長プレゼン②
14回目	後期評価テスト
15回目	後期の振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	プレゼン力：40％ 傾聴力：30％ 筆記試験30％

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

２０２０年度　シラバス

科目名（英語表記）	コミュニケーションスキルアップ （ Improving Communication Skills ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	セレーノ・コーポレーション
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 （ 2 ）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日1時限・金曜日2時限

【授業の学習内容】

社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。

※担当教員：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施する。

【到達目標】

12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指すと共に、
豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	授業の進め方、オリエンテーション（自己紹介）、コミュニケーションの定義【P9～】
2回目	第一印象（コミュニケーションの定義、メラビアンの法則、笑顔の作り方）【P14～】 基本的対話スキル、会話のプロセス
3回目	基本的対話スキル 「話し方」【P18～】
4回目	基本的対話スキル 「聴き方」【P23～】
5回目	基本的対話スキル 「グループでの会話」【P34～】
6回目	ロープレ：情報共有、整理・集約のゲーム①、中間試験対策
7回目	中間試験、自己表現スキル 「挨拶」「自己表現」【P42～】
8回目	中間評価フィードバック、自己表現スキル 「上手な頼み方、断り方」「自己主張」【P46～】
9回目	自己表現スキル 「報連相」「会議・ミーティング」【P60～】
10回目	自己表現スキル 「アンガ―マネジメント」【P80～】
11回目	社会的スキル 「基本的な社会的スキル」【P94～】
12回目	社会的スキル 「挨拶」「敬語」「電話応対」【P96～】
13回目	前期評価テスト　対策
14回目	前期評価テスト　実施　試験後、教科書のポイントを再度伝え、内容を理解させる
15回目	前期評価テスト　解説 後期の授業の進め方
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておくこと。
評価方法	試験100％

【使用教科書・教材・参考書】

コミュニケーションスキルアップ検定（JESC）

２０２０年度　シラバス

科目名（英語表記）	コミュニケーションスキルアップ （ Improving Communication Skills ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	セレーノ・コーポレーション
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 （ 2 ）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日1時限・金曜日2時限

【授業の学習内容】

社会人として通用するコミュニケーション力を年間を通じ身に付ける事で、学生生活、就職活動、卒業後の社会生活を円滑に送る事ができ、また人生をより豊かにする機会も増える。この科目ではビジネス現場で求められるコミュニケーションや対応、言葉遣いを実践しながら学ぶ。

※担当教員：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より講師を招き、授業を実施。

【到達目標】

12月に行われるコミュニケーションスキルアップ検定の合格を目指すと共に、
豊かな人生を送るためにコミュニケーションスキルを発揮できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	ロープレ：ビジネス電話検定、電話応対ゲーム
2回目	社会的スキル 「接客」「訪問」【P105～】
3回目	社会的スキル 「謝罪」【P112～】
4回目	ロープレ：接客、訪問、名刺交換
5回目	社会的スキル 「ビジネス文書」「メール」「FAX」「SNS」【P116～】
6回目	中間試験対策
7回目	中間試験、サービスマインドとは
8回目	中間評価フィードバック DVD鑑賞　マナーの本質 「相手を思いやる心」
9回目	サービスマインド 「サービスとは」「サービスの心得」【P126～】
10回目	サービスマインド 「サービス基本要素」【P132～】
11回目	ロープレ：ビジネスシュミレーションゲーム（敬語・電話応対・訪問・接客）
12回目	謝罪（謝る、お詫びする） マナーを意識した行動
13回目	後期期末試験対策
14回目	後期期末試験、ビジネスシュミレーションワーク
15回目	1年間の総復習、ロープレ
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておくこと。
評価方法	試験100%

【使用教科書・教材・参考書】

コミュニケーションスキルアップ検定（JESC）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	コンピュータ演習 （Computer Skills Practice）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	千葉　惠一/井口　恵美里
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日5時限／木曜日4時限／木曜日5時限／金曜日3時限

【授業の学習内容】

業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく。
前期は「Word」を使い「レポート」や「写真を貼った文章」が作れるように勉強していく。また、安全にインターネットを利用できるように「ITリテラシー」も勉強する。
前期・後期をまたぎ「PowerPoint」でスライド作成の勉強をする。
基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。

※担当教員：長年滋慶学園各校でコンピュータ授業を担当。

【到達目標】

教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる。
Wordを使ってレポート作成が出来るようになる。
安全にインターネットを利用できるようになる。
「We are ECO」のスライドが作れるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／ITリテラシー①
2回目	ITリテラシー②
3回目	Wordの基本操作①
4回目	Wordの基本操作②
5回目	Wordの基本操作③
6回目	Wordの基本操作④
7回目	Wordの基本操作⑤
8回目	Word中級編①
9回目	Word中級編②
10回目	Word中級編③
11回目	Wordの応用①
12回目	Wordの応用②
13回目	Wordの応用③
14回目	期末評価/Wordの応用まとめ
15回目	PowerPoint基礎①
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作のを確認する。
評価方法	小テスト(20%)＋中間評価テスト(30%)＋期末テスト(50%)　※中間・期末の評価は提出作品（Word作品提出）

【使用教科書・教材・参考書】

・COMPUTER　BASIC　WORD　2019　（株式会社滋慶出版）
・COMPUTER　BASIC　EXCEL　2019　（株式会社滋慶出版）

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	コンピュータ演習 (Computer Skills Practice)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	千葉　惠一/井口　恵美里
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日5時限／木曜日4時限／木曜日5時限／金曜日3時限

【授業の学習内容】

業種を問わず必要とされる「コンピュータの操作」を勉強していく
後期は「Excel」を使い「計算式が入った表」や「読みやすいグラフの作り方」を勉強していく
Excelへの苦手意識を少しでも減らす講義にする
基本的な授業の進め方は、今日勉強する事の説明→教科書の説明→プロジェクターで実演→PCで操作とする。

※担当教員：長年滋慶学園各校でコンピュータ授業を担当。

【到達目標】

Excelへの苦手意識を少しでも減らし、教科書を読みながら、書かれている操作が出来るようになる。
Excelを使って計算式が入った表やグラフが作成出来るようになる。
「We are ECO」のスライドを作成することが出来るようになる。

授業計画・内容	
1回目	PowerPoint基礎（印刷、スライドマスター、切り替え効果、アニメーション）
2回目	PowerPoint課題提出
3回目	Excelの基礎①
4回目	Excelの基礎②
5回目	Excelの基礎③
6回目	Excelの基礎④
7回目	Excel中級編①
8回目	Excel中級編②
9回目	Excel中級編③
10回目	Excel中級編④
11回目	Excelの応用①
12回目	Excelの応用②
13回目	Excelの応用③
14回目	期末評価/Excel応用まとめ
15回目	まとめ(Word・Excel・PowerPoint)
準備学習 時間外学習	課題提出の準備として、事前の画像・映像などの撮影チェック(スマートフォンでできる範囲でよい) 授業の予習として、わからない言葉や内容の部分を自宅のネット環境で調べられる範囲の予習。 授業後の内容確認としてパソコン操作のを確認する。
評価方法	小テスト(20%)＋中間評価テスト(30%)＋期末テスト(50%)　※中間・期末の評価は提出作品（PowerPoint作品提出・Excel作品提出）

【使用教科書・教材・参考書】

・COMPUTER　BASIC　WORD　2019　（株式会社滋慶出版）
・COMPUTER　BASIC　EXCEL　2019　（株式会社滋慶出版）

２０２１年度　シラバス

科目名 （英語表記）	アニマルベーシック （Animal Study Basics）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	須藤　竜之介
		授業形態	講義	総時間 （単位）	15 (1)	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日2.3時限

【授業の学習内容】

動物が関わる仕事に就く人が知っておくべき生物の基礎知識について、生物知識、動物医療、飼育現場、環境保全の観点から全般的に解説する。

【到達目標】

①生物多様性について理解し、説明できる。
②DNA・タンパク質について理解し、説明できる。
③生物の進化・分類について理解し、説明できる。
④病気・免疫・公衆衛生について理解し、説明できる。
⑤飼料・五大栄養素について理解し、説明できる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション
2回目	生物多様性・外来種と絶滅危惧種・環境問題　1回目
3回目	生物多様性・外来種と絶滅危惧種・環境問題　2回目
4回目	DNA・遺伝子・進化・分類　1回目
5回目	DNA・遺伝子・進化・分類　2回目
6回目	病気・公衆衛生・免疫
7回目	血液・五大栄養素
8回目	代謝・分泌
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	1. 講義内容の該当ページに対応する事前・事後学習。 2. 講義で取扱えなかった教科書の課題レポート。 【2.の追加説明】本講義アニマルベーシックでは、生物学全般の分野を取り扱う。しかしながら、生物学全般という範囲はあまりにも膨大すぎるため、取り扱えない領域がある。その分野を時間外学習に当てている。
評価方法	1. 授業内評価(例：講義受講態度、講師による質問に対する回答意欲) 10% 2. 出席状況 40% 3. 期末評価・レポート提出50%

【使用教科書・教材・参考書】

ECO業界で役立つ基礎生物（株式会社滋慶出版）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物の体のしくみ （Animal Anatomy and Phisiology ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高田　真理子
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3、4時限

【授業の学習内容】

動物の骨格や外皮系、各臓器の正常な状態（形・位置・色・機能など）について学ぶ。体のしくみを理解することで問題と対策方法がわかる。
教科書には、その部分に多い病気についても記載があるので、正常な機能と比較をしながら解説をしていく。

※担当教員実務経験：家畜保健衛生所にて約2年、国営海の中道海浜公園にて約30年、獣医師として従事。

【到達目標】

①各臓器の正常な形・位置・色・機能などを理解し、説明することができる。
②各臓器の正常（健康）時と異常（病気）時の違いを比較し、説明することができる。
③現場で動物の健康チェックを行う時に、異常に気づくことができる　病気の動物に対するケアに活用することができることを目標とする。

授業計画・内容	
1回目	授業の進め方、骨格について①
2回目	骨格について②　筋肉について①
3回目	筋肉について②　外皮について
4回目	消化器について①
5回目	消化器について②
6回目	消化器について③
7回目	泌尿器について
8回目	呼吸器について
9回目	循環器について①
10回目	循環器について②
11回目	感覚器について
12回目	神経系について
13回目	動物の体のまとめ
14回目	期末評価試験、振り返り
15回目	期末評価試験の返却及び解説　これまでの振り返り
準備学習 時間外学習	授業内容はノートにまとめ知識習得に努める。 授業後には教科書やノートを見返し復習すること。
評価方法	筆記試験70% 授業内評価（課題への取り組み、レポートの等）30%

【使用教科書・教材・参考書】

滋慶教育科学研究所「イラストで見る動物の体のしくみ」

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	動物の健康管理 (Animal Health Management)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	髙山　清次
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

動物を飼育するための飼育管理方法、病気やその予防法を理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

①健康チェックを行うときの具体的な方法と判断基準について理解できる、予防の内容と注意点について理解できる。
②健康チェックを動物に行うことができる。
③動物の変化に気づくことができる、動物を病気にさせない環境をつくり、病気にさせないための対策を立てることができる。

授業計画・内容	
1回目	授業の目的、進め方
2回目	動物園動物の健康管理の特徴①
3回目	動物園動物の健康管理の特徴②
4回目	動物園動物の健康管理の特徴③
5回目	動物園動物の健康管理の特徴④
6回目	動物園動物の健康管理の特徴⑤
7回目	水族館動物の健康管理について①
8回目	水族館動物の健康管理について②
9回目	ペット系動物の健康管理について①
10回目	ペット系動物の健康管理について②
11回目	ペット系動物の健康管理について③
12回目	産業動物の健康管理について①
13回目	産業動物の健康管理について②
14回目	期末評価試験、振り返り
15回目	期末評価試験の返却及び解説　これまでの振り返り
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 テキストの範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

滋慶教育科学研究所「イラストで見る動物の飼養管理」
参考書：社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編 1 繁殖・飼料・病気」

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	アニマルヒストリー （ History of Interconnections between Animals and Humans ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	福井　智太
		授業形態	講義	総時間 （単位）	15 （１）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日　2、3時限

【授業の学習内容】

民族や宗教、歴史等の観点から人と動物の関わりに関して考え、説明できるようになる。

※担当教員実務経験：九州自然動物園アフリカンサファリに3年間勤務。ふれあいゾーンにて小動物、中型・草食動物、家畜動物の飼育とふれあい業務および、サファリゾーンにて中型～大型草食動物、アメリカクロクマなどの飼育展示業務を経験。到津の森公園に10年間勤務。日本産動物（小型哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類）、大型草食動物、大型肉食動物、類人猿、霊長類、鳥類の飼育展示業務および、来園者向けの環境学習、体験型講座、企画展など学習イベントの企画・運営業務、大型動物・特定動物担当班の班長業務に従事。

【到達目標】

・野生動物と人の関わりから始まり、動物の家畜化、愛玩・展示目的での動物飼育と変遷してきた歴史を理解する。
・民族や宗教による動物観の違いを学び、動物を取り巻く欧米諸国と日本の思考体系の差を理解する。

授業計画・内容	
1回目	シラバスを用いて授業計画の説明、自己紹介、動物観の違い実例解説（「動物福祉」と「動物愛護」など）、人と動物の関わりの歴史の一例解説（ゾウ）
2回目	人と動物の関わり①野生動物と狩猟採集生活（動物は「獲物」、欧米と日本の違い）
3回目	人と動物の関わり②家畜化と牧畜・愛玩動物化（動物を「管理」「使役」「愛玩」、主な家畜動物と愛玩動物の家畜化の歴史、欧米と日本の違い）
4回目	人と動物の関わり③収集・展示（動物を「集めて飼う」「公開する」、動物園の成り立ち、日本国内の動物園の歴史）
5回目	欧米諸国と日本の民族史と宗教史による動物観の違い（「動物福祉と愛護」の成り立ち、安楽殺、捕鯨問題）、プチグループワーク「来園者にどう伝えるか」
6回目	後期評価試験、試験内容の振り返り
7回目	これまでの振り返り、まとめ
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	授業前後に教科書または、以下参考資料を読み込むこと。 ・日本畜産学会若手企画委員会HP（主に「読み物」のページに国内の家畜動物研究者による研究内容紹介あり） ・「動物の家畜化」や「宗教観と動物観」についての書籍など
評価方法	出席率：30% 授業態度：20% 評価試験結果：50%

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：滋慶教育科学研究所「アニマルヒストリー」
参考書・参考資料：日本畜産学会若手企画委員会HP（主に「読み物」のページに国内の家畜動物研究者による研究内容紹介あり）
「動物の家畜化」や「宗教観と動物観」についての書籍など
講師が飼育員在職中に撮影した写真および映像資料

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物園飼育論Ⅰ （ Zoo Keeping Theory Ⅰ ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	井上　龍介
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	土曜日　1、2時限

【授業の学習内容】

日本動物園水族館協会発行のテキストを基に、動物園の歴史と目的、使用動物の生態、危機管理、分類、学名、個体識別、哺乳類・鳥類・両生爬虫類の生理等について講義、観察、演習、実習を行う。

※担当教員実務経験：1981年～「海の中道海浜公園　動物の森」立ち上げから20年以上責任者として携わり、園内の動植物の飼育管理の他獣舎や展示場の設計にも携わる。動物園における飼育技術を現場で実践している。

【到達目標】

動物園における動物飼育技術の基礎となる知識を修得し、学習者は毎回の講義内容の主な項目について概要を説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	動物園の歴史と存在意義、日本動物園水族館協会の活動（新飼育ハンドブック③）
2回目	動物の生態Ⅰ：分布と生態、動物園の関わり（新飼育ハンドブック③）
3回目	動物の生態Ⅱ：国内種の分布と生態、動物園の関わり（新飼育ハンドブック⑤）
4回目	危機管理Ⅰ：事故防止と脱出防止（新飼育ハンドブック⑤）
5回目	危機管理Ⅱ：飼育従事者の感染症予防（新飼育ハンドブック③）
6回目	動物の分類：分類学、国際動物命名規約、個体の識別（新飼育ハンドブック③）
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	哺乳類の生理Ⅰ：消化と吸収、体温と代謝エネルギー量（新飼育ハンドブック③）
9回目	哺乳類の生理Ⅱ：神経、血液、呼吸、感覚器官。内分泌と繁殖（新飼育ハンドブック③）
10回目	鳥類の生理Ⅰ：羽毛、消化と吸収、体温、気嚢と肺（新飼育ハンドブック③）
11回目	鳥類の生理Ⅱ：神経、血液、感覚器官、内分泌と繁殖生理（新飼育ハンドブック③）
12回目	鳥類の生理Ⅲ：有精卵の観察、ふ卵器の構造と操作実習（新飼育ハンドブック③）
13回目	両生類、爬虫類の生理：消化と吸収、体温と代謝エネルギー量（新飼育ハンドブック③）
14回目	昆虫の生理：体のしくみ、感覚器官、繁殖、ミツバチのコミュニケーション（新飼育ハンドブック③）
15回目	前期評価試験及び振り返り
準備学習 時間外学習	授業前までにハンドブックまたは他資料の該当するページを読み込み予習する。 また、授業内容はノートにまとめ知識習得に努める。 調べ学習等の課題に取り組み提出する。
評価方法	筆記試験70%　授業内評価（課題への取組み、小テスト）30%

【使用教科書・教材・参考書】

社団法人 日本動物園水族館協会「新飼育ハンドブック動物園編①、③、⑤」、オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	動物園飼育論Ⅰ (Zoo Keeping Theory Ⅰ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	井上　龍介
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日　3、4時限

【授業の学習内容】

テキスト類を基に、主に繁殖管理(飼料の見方、個体の記録、均衡劣化対策、出産予定日の特定等)や病気の予防と対応(疾病の種類、観察法、発生時の対応等)について講義、観察、演習を行う。さらに動物園雑誌記載の事例を学び実践的知識を深める。

※担当教員実務経験:1981年～「海の中道海浜公園　動物の森」立ち上げから20年以上責任者として携わり、園内の動植物の飼育管理の他獣舎や展示場の設計にも携わる。動物園における飼育技術を現場で実践している。

【到達目標】

動物園における動物飼育技術のより実践的知識を修得し、学習者は毎回の講義内容の主な項目について概要を説明できる。

授業計画・内容	
1回目	繁殖管理Ⅰ:繁殖関係資料の見方(新飼育ハンドブック①、資料編)
2回目	繁殖管理Ⅱ:個体カードと近交劣化対策(新飼育ハンドブック①)
3回目	繁殖管理Ⅲ:繁殖行動の観察と出産予定日の計算(新飼育ハンドブック①)
4回目	飼料給餌Ⅰ:給餌一覧表の見方(新飼育ハンドブック①)
5回目	飼料給餌Ⅱ:飼料の種類と栄養(新飼育ハンドブック①)
6回目	飼料給餌Ⅲ:給餌表作成演習(新飼育ハンドブック①)
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	病気の予防と対応Ⅰ:病気けがの種類(新飼育ハンドブック①)
9回目	病気の予防と対応Ⅱ:予防と日常観察の方法(新飼育ハンドブック①)
10回目	病気の予防と対応Ⅲ:発生時の対応(収容、治療等)(新飼育ハンドブック①)
11回目	トレーニング:動物園事例学習(JAZA雑誌　Vol50～60)
12回目	展示と環境エンリッチメント:動物園事例学習(JAZA雑誌　Vol50～60)
13回目	教育、研究、広報:動物園事例学習(JAZA雑誌　Vol50～60)
14回目	動物園に関する条約、法令、団体(JAZA雑誌　Vol50～60)
15回目	後期評価試験及び振り返り
準備学習 時間外学習	授業前までにハンドブックまたは他資料の該当するページを読み込み予習する。 また、授業内容はノートにまとめ知識習得に努める。 調べ学習等の課題に取り組み提出する。
評価方法	筆記試験70%　授業内評価(課題への取組み、小テスト)30%

【使用教科書・教材・参考書】

社団法人 日本動物園水族館協会「新飼育ハンドブック動物園編①、③、⑤」、オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	畜産飼養 （ Livestock Breeding ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	林 洋一
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 3、4時限

【授業の学習内容】

家畜の体のしくみ（解剖、生理、病理、管理等）の概括的な理解を始めとして畜産の産業構造、業務実態、職業人としての行動規範などについて学習する。
職業人としての理解が必要な、畜産の流通・規格、生産管理、作業・衛生管理、リスク管理システムの概括についても学習する。

※担当教員実務経験：獣医師。JA全国連（全農）にて、産業動物の生産性向上や、疾病予防に関する多数の実務に従事。

【到達目標】

全家畜の品種と特徴、利用目的、飼育に必要な道具の説明、健康管理、疾病、繁殖について、現場で必要な知識を学び、説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	講座の序論と教科内容の説明 （講師紹介、講師現役40年間の特徴的な経験談など）
2回目	畜産の起源と発展 （人類の進化と出アフリカ、家畜となる野生動物との出会い、畜産の品種改良、生産性向上の歴史など）
3回目	近代的な畜産技術 （効率的な飼養管理をする仕組みと安全安心な畜産物の生産など）
4回目	数字で見る畜産生産 （農水省統計を元に過去と現在の産業構造の解説と職業としての畜産の将来展望など）
5回目	家畜の体の仕組み （動物の細胞、組織、器官についてとその機能など）
6回目	畜種別の特徴 （動物種別の臓器、繁殖生理等の特徴など）
7回目	畜産の立地、施設 （効率的に家畜を飼育するための農場立地、施設、新しい管理技術など）
8回目	飼料栄養 （家畜の糧どなる飼料の原料、栄養、加工形態など）
9回目	糞尿処理と循環農業 （生活環境や水系に負荷をかけずに糞尿を処理する方法と、糞の堆肥処理による循環農業実現など）
10回目	採卵鶏の生産方式 （採卵鶏の品種、育成、産卵生理、鶏卵の特長など）
11回目	肉用鶏の生産方式 （ブロイラーの品種、育成、インテグレーション、食鳥処理、鶏肉の特長など）
12回目	養豚生産方式 （豚の品種とライフサイクル、育成、SPF豚、食肉処理、医療応用など）
13回目	肉用牛の生産方式 （肉用牛の品種、繁殖、育成、食肉処理、BSEと生産履歴管理など）
14回目	期末試験
15回目	期末試験結果と答え合わせ
準備学習 時間外学習	使用テキスト（家畜飼育の基礎）の事前の読み込みにより、理解をより一層、深めることができるので、日常的な予習が望ましい。 授業前後の質問も、気軽に行ってください。
評価方法	期末試験の点数（100点満点）×0.8＋ 出席点（各期の講義出席率×20：小数点以下切捨）

【使用教科書・教材・参考書】

講義毎に配布するオリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	畜産飼養 （ Livestock Breeding ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	林 洋一
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 3、4時限

【授業の学習内容】

家畜の体のしくみ（解剖、生理、病理、管理等）の概括的な理解を始めとして畜産の産業構造、業務実態、職業人としての行動規範などについて学習する。
職業人としての理解が必要な、畜産の流通・規格、生産管理、作業・衛生管理、リスク管理システムの概括についても学習する。

※担当教員実務経験：獣医師。JA全国連（全農）にて、産業動物の生産性向上や、疾病予防に関する多数の実務に従事。

【到達目標】

全家畜の品種と特徴、利用目的、飼育に必要な道具の説明、健康管理、疾病、繁殖について、現場で必要な知識を学び、説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	乳用牛の生産方式 （乳用牛の品種、繁殖、育成、泌乳生理、牛乳生産管理など）
2回目	病原体と免疫・検査 （動物の感染症と健康を守るための健康力を上げる方法、免疫現象の説明）
3回目	鶏病の予防と治療 （鶏の感染症と対策−鳥インフルエンザなど）
4回目	豚病の予防と治療 （豚の感染症と対策−口蹄疫、豚熱など）
5回目	牛病の予防と治療 （牛の感染症と対策−口蹄疫、牛肺疫など）
6回目	衛生管理システム （家畜の生産能力を最大限に発揮するための具体策など）
7回目	鶏卵・鶏肉の流通と品質管理 （安全・安心を消費者に届けるための鶏卵・鶏肉の規格・流通システムなど）
8回目	豚肉の流通と品質管理 （安全・安心を消費者に届けるための豚肉の規格・流通システムなど）
9回目	牛肉・牛乳の流通と品質管理 （安全・安心を消費者に届けるための規格・流通システムなど）
10回目	養豚農場の業務管理 （畜産農場の例として養豚農場を用いて実際に運用されているシステムの紹介など）
11回目	畜産農場の経営管理 （営利事業としての畜産農場を物と金の面からの管理手法、リスク管理など）
12回目	畜産業のルールと法律 （畜産農場を経営する時に遵守すべき法令、アニマルウェルフェア、GAPなど）
13回目	職業としての畜産と1年の振返り （講師が在職した畜産団体・企業を参考に、畜産企業を対象とした就職活動の概要、1年の振りかえり）
14回目	期末試験
15回目	期末試験結果と答え合わせ
準備学習 時間外学習	使用テキスト（家畜飼育の基礎）の事前の読み込みにより、理解をより一層、深めることができるので、日常的な予習が望ましい。 授業前後の質問も、気軽に行ってください。
評価方法	期末試験の点数（100点満点）×0.8＋ 出席点（各期の講義出席率×20：小数点以下切捨）

【使用教科書・教材・参考書】

講義毎に配布するオリジナルプリント

２０２２年度　シラバス

科目名 （英語表記）	エキゾチックアニマル (Exotic Animals)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	安田　桂三
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	土曜日 1、2時限

【授業の学習内容】

小動物の生態、行動、飼育管理法について学び、理解し、お客様に説明できるようになる。

※担当教員実務経験：エキゾチックアニマルペットショップ「GROWING」の創業メンバーとして、店舗の設備、デザインを担当。その後管理業務、接客、取引に関する店舗営業の大部分を担当。水族館や大型ショッピングモール等と協力してのイベント運営などにも従事。
現在は生体の販売、繁殖、輸入等に従事。

【到達目標】

現在、一般的に販売されている小動物の生態を飼育目線で理解し、お客様に説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション（プロとしての飼育知識、必要なマインドについて）
2回目	エキゾチックアニマルとは（家畜、コンパニオンアニマルとの違い）
3回目	エキゾチックアニマルの生態・飼育方法の調べ方、学び方
4回目	ハムスターの生態・飼育方法・疾病・お客様からの声
5回目	ハムスターの生態・飼育方法について、プロ目線でのお客様対応発表
6回目	ウサギの生態・飼育方法・疾病・お客様からの声
7回目	ウサギの生態・飼育方法について、プロ目線でのお客様対応発表
8回目	フェレットの生態・飼育方法・疾病・お客様からの声
9回目	フェレットの生態・飼育方法について、プロ目線でのお客様対応発表
10回目	フクロモモンガの生態・飼育方法・疾病・お客様からの声
11回目	フクロモモンガの生態・飼育方法について、プロ目線でのお客様対応発表
12回目	ハリネズミの生態・飼育方法・疾病・お客様からの声
13回目	ハリネズミの生態・飼育方法について、プロ目線でのお客様対応発表
14回目	エキゾチックアニマルを紹介するレポートの概要説明
15回目	レポート提出・講義全体の振り返り、統括
準備学習 時間外学習	現在のお客様の多くが、インターネットで飼育方法を調べるため、 ・生態（原産国、野生での生活、人間との関係性） ・飼育方法（温度、湿度管理、餌、必要な機材） 前記の内容を、授業までにあらかじめ自身で調べておくこと。 授業で説明した内容と、自身が調べた内容を比較し、お客様にご案内するときに重要なことを復習し考えること。
評価方法	定期試験を実施（70%）と、授業への参加意欲（30%）を見て評価。

【使用教科書・教材・参考書】

滋慶教育科学研究所監修「イラストで見る動物の飼養管理」

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	コンパニオンアニマル (Companion Animals)	必修選択	必修	年次	1	担当教員	川島　秀樹
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日　　2、5時限

【授業の学習内容】

犬猫の歴史についてはペットショップで生体販売するときに顧客に説明できるよう世界的な流れを学ぶ。また、ショップ以外の動物園他の関連業務でも説明の必要が出てくるのでペット化した流れを習得する。とくに猫は近年の「猫ブーム」とともに飼育家庭が増加傾向にあるため適正な飼育管理ができるよう体のつくりや習性・行動を学ぶとともにワクチンワーク等も「なぜ必要か？」「いつ必要か？」を他者に説明できるよう知識の習得を図る。

※担当教員実務経験：2003年よりペットショップ開業・経営～現在に至る。2001年より日本FP協会所属のファイナンシャルプランナーとしても活動。

【到達目標】

ペットショップはもちろん、他の動物関連職業でも応用できるように犬・猫の家畜化の歴史、本来持つべき行動・習性、その為の体のつくりのほかストレスの少ない飼育管理に必要な知識と適応能力を身に着け、顧客にアドバイスできるようになる。
具体的な目標①　動物(特に犬や猫)の家畜化までの歴史を学び、顧客に説明できるようになる。
具体的な目標②　猫の習性や行動を知り、適正な飼育管理方法を顧客にアドバイスができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	授業内容の説明、スケジュール紹介・評価基準説明と各自の自己紹介
2回目	犬猫の歴史①（ミアキスからペットとしての犬猫までと人間との関わり）
3回目	犬猫の歴史②（人間との共生・古代から近代）
4回目	犬猫の歴史③（使役動物としての犬、ペットとしての猫）
5回目	犬猫の歴史の総括、猫の体の疑問（グループワーク）
6回目	中間テスト及び振り返り
7回目	猫の体①（骨格・筋肉等）
8回目	猫の体②（感覚器）
9回目	猫の体③（感覚器としてのヒゲの役割）
10回目	猫の体総括、修正・行動の疑問（グループワーク）
11回目	猫の行動・習性①（テリトリー等）
12回目	猫の行動・習性②（マーキング等）
13回目	猫の行動・習性③（コミュニケーション等）
14回目	前期評価テスト及び振り返り
15回目	評価テストの解説、猫のまとめ
準備学習 時間外学習	この授業においては各単元ごとの初めにオリジナルプリント（犬猫の歴史・猫の百科事典・猫学教本等からの抜粋で作成）を配布する。その為、事前に目を通しておくことが大切。また、各論として内容により次週学習することの一部を下調べをしておくことを授業中に発表する（ネット等で簡単に調べられるもの）ので準備学習を要する。
評価方法	前期末の評価テストを中心にする（内容は前期に学習したこと全部）・・・60% 中間テスト・・・30% 授業内評価（傾聴力・発言力）・・・10%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント（猫の百科事典・猫学教本等からの抜粋で作成）、ブルーレイディスク等

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	コンパニオンアニマル （ Companion Animals ）	必修選択	必修	年次	1	担当教員	川島　秀樹
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日　　2、5時限

【授業の学習内容】

当たり前に知っているであろう犬という動物について専門家としてペットショップで生体販売するときに顧客に説明できるよう「体のつくり」「本能に基づく習性・行動」を学ぶ。また、ショップ以外の動物園他の関連業務でも説明の必要が出てくるので他の動物との比較も習得する。とくに犬は人との関わりが最も古い動物として人間社会での共生の実態を学習するとともに、適正な飼育管理ができるよう体のつくりや習性・行動を学ぶ。また、ワクチンワーク等も「なぜ必要か？」「いつ必要か？」を他者に説明できるよう知識の習得を図る。更に、犬猫の病気・ズーノーシスについても動物業務に携わる者として知っておくべきことを習得する。

※担当教員実務経験：2003年よりペットショップ開業・経営～現在に至る。2001年より日本FP協会所属のファイナンシャルプランナーとしても活動。

【到達目標】

ペットショップはもちろん、他の動物関連職業でも応用できるように犬・猫の家畜化の歴史、本来持つべき行動・習性、その為の体のつくりのほかストレスの少ない飼育管理に必要な知識と適応能力を身に着ける。
具体的な目標①　犬の習性や行動を学び、顧客に説明できるようになる。
具体的な目標②　犬の体のつくりを理解し、顧客にアドバイスができるようになる。
具体的な目標③　犬猫の病気・ズーノーシスを学習し、動物業務従事者として適正な飼育管理ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	犬という動物の本能
2回目	犬の行動・習性①（本能に基づく行動）
3回目	犬の行動・習性②（動物業務従事者としての実務）
4回目	犬の行動・習性③（まとめ）グループワーク
5回目	犬の体①（骨格・筋肉等）
6回目	犬の体②（感覚器等）
7回目	中間テスト及び振り返り
8回目	犬の体③（生理値の観察・測定方法、まとめ）
9回目	人と犬の社会（人との関わり、使役・産業動物）
10回目	犬猫の病気①（感染症、対策としてのワクチン）
11回目	犬猫の病気②（寄生虫等外部要因）
12回目	犬猫の病気③（中毒や現代疾患）
13回目	ズーノーシス
14回目	後期評価テスト及び振り返り
15回目	テストの解説、犬・病気のまとめ（グループワーク）
準備学習 時間外学習	この授業においては各単元ごとの初めにオリジナルプリント（犬猫の歴史・猫の百科事典・猫学教本等からの抜粋で作成）を配布する。その為、事前に目を通しておくことが大切。また、各論として内容により次週学習することの一部を下調べをしておくことを授業中に発表する（ネット等で簡単に調べられるもの）ので準備学習を要する。
評価方法	前期末の評価テストを中心にする（内容は前期に学習したこと全部）・・・60% 中間テスト・・・30% 授業内評価（傾聴力・発言力）・・・10%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント（猫の百科事典・猫学教本等からの抜粋で作成）、ブルーレイディスク等

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	動物学概論 (Introduction to Zoology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	菅野　宏文
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	土曜日3、4、5時限

【授業の学習内容】

動物園・水族館の意義と役割、動物園・水族館に関係する法令、分類と分類学、脊椎動物の生理及び生態・メンデルと遺伝、染色体と遺伝、性と遺伝等、生物学史、生命の誕生を学ぶ。

※担当教員実務経験：日本蛇族学術研究所研究員。伊豆アンディランド学芸員。現在は執筆活動も行っている。

【到達目標】

業界(動物園・水族館・企業等)のニーズに対応出来る深い知識を習得し、更には動物園・水族館の採用試験に対応出来る学力を培う。

授業計画・内容	
1回目	動物園・水族間の意義・役割
2回目	動物の愛護及び管理に関する法律
3回目	動物の愛護及び管理に関する法律、特定動物
4回目	外来生物法
5回目	ワシントン条約及び種の保存法
6回目	分類の概念及びリンネ式分類学・種の概念・形態学的・生物学的種の定義
7回目	五界説における動物界の各門の概要・最新の分類・古細菌と3ドメインセオリー
8回目	学名、国際動物命名規約、二名法
9回目	動物の生態・生態用語等の解説・適応拡散と収れん現象
10回目	動物の生態・多様な繁殖様式・動物地理学・動物分布上の諸規則
11回目	メンデルと遺伝I・遺伝の法則
12回目	メンデルと遺伝II・遺伝子の相互作用
13回目	期末試験・ペーパーテスト実施
14回目	試験解答及び全過程の総括・性と遺伝子・性の決定
15回目	生物学の歴史・アリストテレス～、生物の定義と生命の誕生
準備学習 時間外学習	各自ノートの読み返しをし、復習に努める。講義の予習、調べ学習も行うこと。
評価方法	出席率・試験成績により判断する。 出席率70%以上の学生には2点、80%以上の学生には3点、90%以上の学生には5点、筆記試験に加点する。 筆記試験評価　GPA〔A 100～90、B 89～80、C 79～70、D 69～60、F 59～0(不合格)となる。〕 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：日本動物園・水族館協会「飼育ハンドブック・動物園編」III
　　内田享著(1965)：「動物系統分類の基礎　」(株式会社　北隆館)

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物行動論 （　Animal Behaviour Theory　）	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	藤井　勝
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日１・2時限

【授業の学習内容】

オペラント条件づけとレスポンデント条件づけを中心に学習理論の基礎となる用語の理解を深め、
動物園で飼育されている動物のトレーニングにおける背景（理論）を学ぶ。

※担当教員実務経験：北海道大学卒業後、ワールドドルフィンリゾート及びワールド牧場にてハンドウイルカ、オキゴンドウ、ハナゴンドウ、ケープペンギン、マゼランペンギン、
フンボルトペンギンの飼育業務・ふれあい担当トレーナーとして従事。その後、パラオ共和国 Dolphins Pacificにて7年間、ハンドウイルカの飼育業務
・ふれあい・ドルフィンスイム・ドルフィンダイブのトレーナーとして従事

【到達目標】

オペラント条件づけ、レスポンデント条件づけ、消去、般化と弁別など、学習における基本的な理論を学ぶ。

授業計画・内容	
1回目	オペラント条件づけ（強化）
2回目	正の強化
3回目	負の強化
4回目	オペラント条件づけ（弱化）
5回目	正の弱化
6回目	負の弱化
7回目	レスポンデント条件づけ
8回目	般化と弁別
9回目	脱感作
10回目	シェイピング
11回目	ハズバンダリートレーニング
12回目	現代における強化
13回目	シェイピングゲーム
14回目	評価試験、様々な動物のトレーニング
15回目	前期授業統括
準備学習 時間外学習	授業中に適宜課題を与える。授業内容理解し適宜メモを取ること。
評価方法	筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：Animal Training (Ken Ramirez)　行動分析学入門（産業図書）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物行動論 （　Animal Behaviour Theory　）	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	藤井　勝
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1・2時限

【授業の学習内容】

オペラント条件づけとレスポンデント条件づけを中心に学習理論の基礎となる用語の理解を深め、
動物園で飼育されている動物のトレーニングにおける背景（理論）を学ぶ。

※担当教員実務経験：北海道大学卒業後、ワールドドルフィンリゾート及びワールド牧場にてハンドウイルカ、オキゴンドウ、ハナゴンドウ、ケープペンギン、マゼランペンギン、
フンボルトペンギンの飼育業務・ふれあい担当トレーナーとして従事。その後、パラオ共和国 Dolphins Pacificにて7年間、ハンドウイルカの飼育業務
・ふれあい・ドルフィンスイム・ドルフィンダイブのトレーナーとして従事

【到達目標】

オペラント条件づけ、レスポンデント条件づけ、消去、般化と弁別など、学習における基本的な理論を学ぶ。

授業計画・内容	
1回目	エラーレスラーニング
2回目	行動のモメンタム
3回目	チョイスアンドコントロール
4回目	エンパワーメント
5回目	CAT（Constructional Aggression Treatment）
6回目	Operant Counter Conditioning
7回目	Classical Counter Conditioning
8回目	対話トレーニング
9回目	阻止の随伴性①（好子出現阻止による弱化）
10回目	阻止の随伴性②（嫌子出現阻止による強化）
11回目	阻止の随伴性③（好子消失阻止による強化）
12回目	阻止の随伴性④（嫌子消失阻止による弱化）
13回目	Stimulus Control
14回目	評価試験、分化強化
15回目	後期授業統括
準備学習 時間外学習	授業中に適宜課題を与える。授業内容理解し適宜メモを取ること。
評価方法	筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：Animal Training (Ken Ramirez)　行動分析学入門（産業図書）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物飼育演習Ⅰ （ Practice of Animal Keeping－Ⅰ ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	椎場　瞳
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 （４）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日3、4時限

【授業の学習内容】

実際の現場（動物園・牧場・ショップ他動物関連施設）へ出向き、各施設の特徴や飼育管理について学ぶ。また、現場のスタッフの話を聞き、現場で必要とされる「身構え・気構え・心構え」を学び身に付ける。実際の現場（動物園・牧場・ショップ他動物関連施設）へ出向き、各施設見学や飼育管理及び講話を聴講する。またそれらをまとめレポートにて提出する。実際に現場で働くスタッフの講話を受け、これからの現場で求められる知識、技術を理解する。

※担当教員実務経験：サファリパークにて飼育員として従事。サルや鳥類、クマ等様々な動物の飼育のほかワラビーの人工保育といった繁殖にも携わる。

【到達目標】

・施設の特徴を理解することができる。
・お客様へのホスピタリティを理解する事が出来る。
・現場で必要となるスキルを身に付ける事が出来る。

授業計画・内容	
1回目	【ガイダンス①】目的・目標、年間スケジュール
2回目	【施設見学①】動物の森
3回目	【施設見学①】動物の森
4回目	【施設見学②】ピクニカ共和国
5回目	【施設見学②】ピクニカ共和国
6回目	【ガイダンス②】振り返り、事前学習
7回目	【宿泊研修】うみたまご、アフリカンサファリ
8回目	【宿泊研修】うみたまご、アフリカンサファリ
9回目	【宿泊研修】うみたまご、アフリカンサファリ
10回目	【宿泊研修】うみたまご、アフリカンサファリ
11回目	【ガイダンス③】振り返り、事前学習
12回目	【施設見学③】動物愛護センター
13回目	【ガイダンス④】振り返り、事前学習
14回目	【施設見学④】長崎バイオパーク、たびら昆虫自然園
15回目	【施設見学④】長崎バイオパーク、たびら昆虫自然園
準備学習 時間外学習	飼育演習先の施設や目的に沿って事前学習を行う。班ごとに調べたものをまとめ、それらを基に研修委員が配布資料を作成。 バス移動中に班ごとに発表しクラスで共有。外に出る機会が多い福岡ECO学生としての立居振舞をするよう心掛けること。
評価方法	レポート：60%、授業内評価（積極性・協調性・傾聴力・発言力）：40%

【使用教科書・教材・参考書】

参考資料：動物関連施設または団体のHP

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物飼育演習Ⅰ （ Practice of Animal Keeping－Ⅰ ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	椎場　瞳
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 （４）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日3、4時限

【授業の学習内容】

実際の現場（動物園・牧場・ショップ他動物関連施設）へ出向き、各施設の特徴や飼育管理について学ぶ。また、現場のスタッフの話を聞き、現場で必要とされる「身構え・気構え・心構え」を学び身に付ける。実際の現場（動物園・牧場・ショップ他動物関連施設）へ出向き、各施設見学や飼育管理及び講話を聴講する。またそれらをまとめレポートにて提出する。実際に現場で働くスタッフの講話を受け、これからの現場で求められる知識、技術を理解する。

※担当教員実務経験：サファリパークにて飼育員として従事。サルや鳥類、クマ等様々な動物の飼育のほかワラビーの人工保育といった繁殖にも携わる。

【到達目標】

・施設の特徴を理解することができる。
・お客様へのホスピタリティを理解する事が出来る。
・現場で必要となるスキルを身に付ける事が出来る。

授業計画・内容	
1回目	【ガイダンス⑤】振り返り、後期スケジュール確認、事前学習
2回目	【演習】乗馬演習①
3回目	【演習】乗馬演習①
4回目	【演習】乗馬演習②
5回目	【演習】乗馬演習②
6回目	【演習】乗馬演習③
7回目	【演習】乗馬演習③
8回目	【ガイダンス⑥】振り返り、事前学習
9回目	【宿泊研修】関西
10回目	【宿泊研修】関西
11回目	【宿泊研修】関西
12回目	【宿泊研修】関西
13回目	【宿泊研修】関西
14回目	【宿泊研修】関西
15回目	【ガイダンス⑦】1年間の振り返り
準備学習 時間外学習	飼育演習先の施設や目的に沿って事前学習を行う。班ごとに調べたものをまとめ、それらを基に研修委員が配布資料を作成。 バス移動中に班ごとに発表しクラスで共有。外に出る機会が多い福岡ECO学生としての立居振舞をするよう心掛けること。
評価方法	レポート：60%、授業内評価（積極性・協調性・傾聴力・発言力）：40%

【使用教科書・教材・参考書】

参考資料：動物関連施設または団体のHP

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ドッグトレーニング演習 （ Practical Dog training ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	牟田　杏奈
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期/後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日４時限/月曜日1時限

【授業の学習内容】

動物の中でも特に人との関わりの長い「犬」に関して学ぶことは、動物の学習理論に理解を深めるとともに、動物業界でのお客様とのコミュニケーション(接客、ふれあい、啓発等)にも活用出来る。この授業では、犬の習性を理解し、また動物施設における適切な管理を学び実践する。

※担当教員実務経験：災害救助犬訓練士として従事、またしつけ教室にて家庭犬トレーナーとして従事。

【到達目標】

犬の生態、行動学、学習の仕方を理解し、犬とのコミュニケーションの向上をはかる。

授業計画・内容	
1回目	授業オリエンテーション（1年間の流れ、注意点）
2回目	犬とのコミュニケーション＋基本的な扱い方
3回目	犬の体の構造、＋犬の分析学
4回目	犬の心理学
5回目	犬の行動学①
6回目	犬の行動学②
7回目	中間評価
8回目	トレーニング１（脚側停座・リーダーウォーク）
9回目	トレーニング２（停座・伏臥）
10回目	トレーニング３（据座・招呼）
11回目	トレーニング４（家庭犬訓練試験に基づいて）
12回目	トレーニング５（家庭犬訓練試験に基づいて）
13回目	トレーニング６（家庭犬訓練試験に基づいて）
14回目	前期末の試験及び振り返り①
15回目	前期期末試験解説、振り返り②
準備学習 時間外学習	トレーニングの実践までに犬の生態、行動学をしっかり理解すること。 授業後はノート、レポートにまとめる。
評価方法	実技試験50% 授業内評価（態度、積極的参加、発言力）30% レポート・ノート提出20%

【使用教科書・教材・参考書】

作成資料　JKC　訓練基本マニュアル

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	小動物飼育演習Ⅰ （Practical Small Animal Care-Ⅰ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	椎場　瞳
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 （4）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時（1週間×2回）

【授業の学習内容】

動物園・動物飼育専攻と総合ペットショップ専攻の2年生をスチューデントティーチャーとし、小動物を中心に体のしくみや生態を理解した上で飼育管理を学ぶ。

※担当教員実務経験：サファリパークにて3年間の飼育員経験有。サルや鳥類、クマ等様々な動物の飼育のほかワラビーの人工保育といった繁殖にも携わる。

【到達目標】

・飼養管理：各種動物に合った飼養管理を理解し、説明できるようになる。
・掃除：限られた時間内での素早く丁寧な掃除ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	授業の流れ・注意点等説明、掃除・調餌・給餌について知る①
2回目	授業の流れ・注意点等説明、掃除・調餌・給餌について知る②
3回目	授業の流れ・注意点等説明、掃除・調餌・給餌について知る③
4回目	飼育管理の実践①
5回目	飼育管理の実践②
6回目	飼育管理の実践③
7回目	飼育管理の実践④
8回目	飼育管理の実践⑤
9回目	飼育管理の実践⑥
10回目	飼育管理の実践⑦
11回目	飼育管理の実践⑧
12回目	飼育管理の実践⑨
13回目	飼育管理の実践⑩
14回目	飼育管理の実践⑪
15回目	飼育管理の実践⑫、前期の振り返り
準備学習 時間外学習	授業終了後に報告書を作成し、内容を振り返る。また、次回授業に向け目標を立てること。
評価方法	授業内実習評価（協調性、コミュニケーション力、発言力、レポート記入力）80%、出席率20%

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：滋慶教育科学研究所監修「イラストで見る動物の飼養管理」、「イラストで見る動物の体のしくみ」
社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編 1 繁殖・飼料・病気」

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	小動物飼育演習Ⅰ （Practical Small Animal Care-Ⅰ）	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	椎場　瞳
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 （4）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時（1週間×2回）

【授業の学習内容】

動物園・動物飼育専攻と総合ペットショップ専攻の2年生をスチューデントティーチャーとし、小動物を中心に体のしくみや生態を理解した上で飼育管理を学ぶ。

※担当教員実務経験：サファリパークにて3年間の飼育員経験有。サルや鳥類、クマ等様々な動物の飼育のほかワラビーの人工保育といった繁殖にも携わる。

【到達目標】

・飼養管理：各種動物に合った飼養管理を理解し、説明できるようになる。
・掃除：限られた時間内での素早く丁寧な掃除ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる①
2回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる②
3回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる③
4回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる④
5回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑤
6回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑥
7回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑦
8回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑧
9回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑨
10回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑩
11回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑪
12回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑫
13回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑬
14回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑭
15回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑮、後期の振り返り
準備学習 時間外学習	授業終了後に報告書を作成し、内容を振り返る。また、次回授業に向け目標を立てること。
評価方法	授業内実習評価（協調性、コミュニケーション力、発言力、レポート記入力）80%、出席率20%

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：滋慶教育科学研究所監修「イラストで見る動物の飼養管理」、「イラストで見る動物の体のしくみ」
社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編 1 繁殖・飼料・病気」

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	進級課題	必修選択	必修	年次	1	担当教員	村上　弘志
	（ Level Advancement Study ）	授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う。

【到達目標】

学習成果（知識・技術）をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。

授業計画・内容	
1回目	進級課題とは①　～進級課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	進級課題の進め方　～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定　～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習①　～自分（班）のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習②　～途中経過の報告～
7回目	実践学習③　～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備①　～パワーポイント作成～
9回目	発表準備②　～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③　～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④　～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤　～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	進級課題の振り返り　～各自（班内）で意見交換、発表～
準備学習時間外学習	各自（各班）で意見交換を随時行う。また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	海外実学研修	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	現地各施設実務従事者
	（ Overseas Practical Training ）	授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		（ 4 ）	曜日・時限	未定

【授業の学習内容】

国際教育の一環として、実際に海外での施設見学、特別講義、自由行動を通し国際性を身に付け、グローバル化する現代社会で活躍できる人材育成を目的とする。

※担当教員実務経験：海外における現地実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・最先端の動物、環境に関わる知識や技術を理解し身に付ける。
・これからの業界に必要な考え方を理解し身に付ける。
・世界における日本の立場を理解する。
・自身のキャリアをデザインする。

授業計画・内容	
1回目	訪問国、訪問施設を調べまとめる、班ごとに発表する
2回目	訪問国での施設見学、特別講義
3回目	訪問国での施設見学、特別講義
4回目	訪問国での施設見学、特別講義
5回目	訪問国での施設見学、特別講義
6回目	訪問国での施設見学、特別講義
7回目	訪問国での施設見学、特別講義
8回目	訪問国での施設見学、特別講義
9回目	訪問国での施設見学、特別講義
10回目	訪問国での施設見学、特別講義
11回目	訪問国での施設見学、特別講義
12回目	訪問国での施設見学、特別講義
13回目	訪問国での施設見学、特別講義
14回目	研修ノートのまとめ、レポート作成
15回目	海外実学研修の振り返り、発表、まとめ
準備学習 時間外学習	・【事前学習】訪問国、訪問施設を調べまとめる ・【事後学習】訪問施設を研修ノート及びレポートにまとめる
評価方法	・研修ノート、レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去の海外実学研修ノート

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	グローバルコミュニケーション (Global Communivcation)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	120 (8)	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限、水曜日4時限、金曜日1・3時限

【授業の学習内容】

好きな事について話すことができる。商品のレビューを読み、書くことができる。
平日、週末のアクティビティについて話すことができる。日常のアクティビティについてのレポートを読む、また書くことができる。
道順について尋ねる、また教えることができる。場所についての特徴について読み、書くことができる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

授業計画・内容			
1回目	個人的な情報をたずねる・説明する表現を学ぶ。Be 動詞を学ぶ、復習する。疑問代名詞[What]の使い方を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く。大文字、ピリオドの使い方を学ぶ。	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	「はい」「いいえ」で答える質問における [Is / Are]の使い方を学ぶ。家族について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	年齢、誕生日に関する表現を学ぶ言い直すに関する言葉を学ぶ。	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」	オンデマンド	
6回目	[it is]の使い方を学ぶ。家具について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	ホームシェアについてのメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	「現在形」陳述文を学ぶ (I, you, we)。好きな事について話す。	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	連絡を取り合う方法について話す。相手の話を聞いていることを示す。	オンデマンド	対面授業と連動
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「好きな音楽について」	オンデマンド	
11回目	「現在形」疑問文（yes/no / WH-question)を学ぶ。時間・ルーティンについて話す。	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	日常のアクティビティについてのレポートを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	[There (is, are), (a lot, some no)]の使い方を学ぶ。町にある場所について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	道順について尋ねる、また教える際に使う表現を学ぶ情報を確認する。	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE1

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	グローバルコミュニケーション （　Global Communivcation　）	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	120 （８）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限、水曜日4時限、金曜日1・3時限

【授業の学習内容】

週末に向けたアウトドア活動の計画を立てることができる。オンラインでの招待状を読み、書くことができる。
過去についての場所や出来事、過去の人について述べることができる。思い出の品についての記事やメールを読む、また書くことができる。
食べた食事について話すことができる。レストランのレビューを読む、また書くことができる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。
自分や他人を紹介することができ、個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。
会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

授業計画・内容			
1回目	「現在進行形」疑問文を学ぶ旅行について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	最近の出来事についてのブログ記事を読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	[Can / Can't](能力)を使う陳述文・疑問文を学ぶ。自身のスキルや能力について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	自分の意見を述べる。自分はある仕事の適任者であることを説明する。	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて話す」	オンデマンド	
6回目	[like to, want to, need to, have to]の使い方を学ぶ。使い分けがわかる旅行計画を立てる。	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	旅行ガイドを読む、また場所の説明を書く。	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[be going to](陳述文)の使い方を学ぶ。週末に向けたアウトドア活動の計画について話す。	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	あることをやってはいけない理由を説明する。	オンデマンド	
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画し、発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	「過去形」(was / were)の疑問文を学ぶ。色、記憶について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	思い出の品についての記事やメールを読む、書く。	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	「過去形」の陳述文を練習する。スナック、軽食について話す。	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	[so / really] (強調する)の使い方を学ぶ。食べ物・飲み物を注文する。	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE1

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	業界研修（Business　Internship）	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	90（6）	開講区分	随時
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。
・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。
・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。
・自らの「キャリア」をデザインできる。

授業計画・内容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表（20%） これらを総合的に判断して評価

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	特別講義＆見学	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
	（ Special Lecture ）	授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。
学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。

※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・動物業界で必要な知識や技術を理解し、身に付ける。
・動物業界で必要な人間力を理解し、身に付ける。
・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。
・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。

授業計画・内容	
1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	イベント運営	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各イベント実務従事者
	（ Event Management ）	授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。
企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。

※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・企画立案、運営ができるようになる。
・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。
・接客を知り、実践できるようになる。
・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。
・予算管理を実践し習得する。
・スケジューリングを理解し、実践できる。

授業計画・内容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備（50%） ・レポート(50%)

【使用教科書・教材・参考書】

過去のイベント資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	特別課外活動	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	各クラブ顧問
	（ Club Activities ）	授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学友会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。

【到達目標】

・チームワークを身に付ける。
・計画性を身に付ける。
・予算管理を身に付ける。
・マネジメントを理解し身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ボランティア活動 （ Volunteer Work ）	必修 選択	必修選択	年次	1	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15 (1)	開講区分	随時
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。

※担当教員：各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。
・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去のボランティア活動報告書

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	資格取得講座 (Seminar for a Qualification)	必修選択	必修選択	年次	1	担当教員	村上　弘志
		授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。

【到達目標】

・各検定試験、資格試験の合格

授業計画・内容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去の各検定、資格教本

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアプランニングⅡ （ Carrier PlanningⅡ ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	赤岩　辰則/村上　弘志
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限/火曜日4時限

【授業の学習内容】

本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道をみつけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。

【到達目標】

・セルフマネジメント（自己理解）を実践できる。
・チームマネジメント（協働作業）を実践し、集団での役割を果たすことができる。
・自己の働く意義（勤労観・職業観）を説明できる。
・目指す動物業界を理解し、その特徴を説明できる。
・自己実現（夢をかなえる）のための目標設定をし実践できる。

授業計画・内容	
1回目	集団（クラス）づくりの理解と実践　（集団の中での自己の学校生活の土台づくりを行う）、クラス組織決め①、クラス目標決め
2回目	セルフマネジメント（自己管理）　各自の目標決め、クラス目標決め②、学園祭について
3回目	チームマネジメント①　学園祭の話し合い①、GWの過ごし方、夢を叶えた先輩たちの「行動の原則」（1年次の振り返り）
4回目	チームマネジメント②　学園祭の話し合い②、GWの振り返り（業界研修含む）
5回目	チームマネジメント③　学園祭の話し合い③、漢字テスト①
6回目	「キャリアデザイン」 ①　学園祭の話し合い④、業界研修について①「注意点、流れについて」
7回目	「キャリアデザイン」 ②　学園祭の話し合い⑤、業界研修について②「研修評価表について」、漢字テスト②
8回目	「キャリアデザイン」 ③　学園祭の振り返り～自身の関わり方と業界研修への姿勢について～
9回目	「キャリアデザイン」 ④　グループワーク①話し合い、漢字テスト③
10回目	「キャリアデザイン」 ⑤　グループワーク②発表
11回目	「キャリアデザイン」 ⑥　クラス目標確認～クラス、個人～、漢字テスト④
12回目	「キャリアデザイン」 ⑦　スポーツフェスタ準備活動①、夏季業界研修準備
13回目	「集団での役割」の理解と実践 ①　スポーツフェスタ準備活動②、漢字テスト⑤
14回目	評価週、前期の振り返り及び後期に向けて、スポーツフェスタ準備活動③
15回目	「集団での役割」の理解と実践②　スポーツフェスタ準備活動④、漢字テスト⑥
準備学習 時間外学習	・日々の学校生活を記録に残す ・動物業界を知る ・動物施設での校外学習に参加する ・事前課題など各種レポートを書く
評価方法	・集団（クラス）での役割の理解と実践　（50%） ・授業参加状況　（30%） ・期末試験（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

・学生便覧
・10分間集中TRAINING「中学A級漢字」（教学研究所出版）
・新社会人の基礎力109（滋慶出版）

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	キャリアプランニングⅡ （ Carrier PlanningⅡ ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	赤岩　辰則/村上　弘志
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限/火曜日2時限

【授業の学習内容】

本科目は、様々な科目で学んだ専門力を総合的に発揮するために、自分自身の将来の進路並びに、自分らしく生きる道をみつけるために、主体的に考え行動し本校で何を学び、学校生活をどのように過ごせばよいのかという「気づき」を与え、キャリア教育の一環として、クラスメイト・担任とのコミュニケーションを図り、社会人となる心構えやホスピタリティ（思いやりの心）を理解し、セルフマネジメント（自己管理）とチームマネジメント（協働作業）が実践的にできるようになるための科目である。

【到達目標】

・セルフマネジメント（自己理解）を実践できる。
・チームマネジメント（協働作業）を実践し、集団での役割を果たすことができる。
・自己の働く意義（勤労観・職業観）を説明できる。
・目指す動物業界を理解し、その特徴を説明できる。
・自己実現（夢をかなえる）のための目標設定をし実践できる。

授業計画・内容	
1回目	「キャリアデザイン」⑧　後期の目標設定、スポーツフェスタの振り返り
2回目	「キャリアデザイン」⑨　WeareECOについて、漢字テスト⑦
3回目	「キャリアデザイン」⑩
4回目	「キャリアデザイン」⑪　：　社会人基礎力　Ⅳ、漢字テスト⑪
5回目	「キャリアデザイン」⑫　：　社会人基礎力　Ⅴ、漢字テスト⑫
6回目	「キャリアデザイン」⑬　：　社会人基礎力　Ⅵ
7回目	進級課題制作①　進級課題のテーマに沿った取り組みを行うⅠ、漢字テスト⑬
8回目	進級課題制作②　進級課題のテーマに沿った取り組みを行うⅡ
9回目	進級課題制作③　進級課題のテーマに沿った取り組みを行うⅢ、漢字テスト⑭
10回目	進級課題制作④　進級課題のテーマに沿った取り組みを行うⅣ
11回目	グループワーク：成功の原則～夢を叶えた卒業生たちから見る行動の原則＋α～
12回目	今年の振り返り～今年の自分を表す漢字を一文字で表現～
13回目	今年の目標～個人目標発表～
14回目	進級課題クラス内発表③
15回目	今年度の振り返り及び3年生へ向けて
準備学習 時間外学習	・日々の学校生活を記録に残す ・動物業界を知る ・動物施設での校外学習に参加する ・事前課題など各種レポートを書く
評価方法	・集団（クラス）での役割の理解と実践　（50%） ・授業参加状況　（30%） ・期末試験（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

・学生便覧
・10分間集中TRAINING「中学A級漢字」（教学研究所出版）
・新社会人の基礎力109（滋慶出版）

２０２１年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ホスピタリティ （ hospitality ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	松岡　尚美
		授業形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日　1、2時限

【授業の学習内容】

日本ホスピタリティ推進協会「ホスピタリティ・コーディネータ」資格を取得した講師から、教本をベースにホスピタリティのフレームを理解し、サービスとホスピタリティの違いや対応力、ホスピタリティ・マインドを学ぶ。様々な業界の事例を参考にし、現場で自ら考え実践できることを目指す。

※担当教員実務経験：藤田観光株式会社ワシントンホテル　宿泊部フロント課勤務。
2017年3月　日本ホスピタリティ推進協会「ホスピタリティ・コーディネータ」資格取得。

【到達目標】

理論と実践の両面からホスピタリティを理解し、マインドとスキルを習得する。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：講義の説明　感動を与えるホスピタリティ（京王プラザホテルのホスピタリティ動画視聴）
2回目	サービスとホスピタリティの違いと語源　日本のおもてなし文化
3回目	5つ星ホテルで働くコンシェルジュの最上級のおもてなし、顧客目線に立つことの理解
4回目	ホスピタリティの実践①　笑顔の作り方、身だしなみ、立ち居振る舞いを身につける
5回目	ホスピタリティの実践②　話し方、効果的な傾聴、言葉遣いなど対応力を磨く
6回目	顧客ロイヤルティとホスピタリティの関係性
7回目	組織と社員（従業員）のホスピタリティ、「ゴールデンサークル理論」から学ぶリーダーシップ
8回目	ご高齢や障がいのある方への対応と気遣い
9回目	異文化コミュニケーション　「やさしい日本語」を使ったコミュニケーションを理解し異文化適応力を身につける
10回目	クレームが起きる原因とお客様心理を理解し対応力を身につける
11回目	★レポート提出日　　ホスピタリティ産業に求められるQSCを理解する
12回目	ハラスメントやコンプライアンスについて正しく理解する
13回目	SDGsについて理解する
14回目	クループディスカッション　：「新しいテーマパークを作ろう」
15回目	前期講義のまとめ
準備学習 時間外学習	ホスピタリティ・マインドを身につけるためには、「相手の立場に立つ」ことや「相手を思いやる」ことを意識し行動することで身についてくる。 また、ホスピタリティに関する書籍を自ら進んで読むことや感動体験を積むなど、感性を磨く。 授業前後での予習と復習を必ず行うこと（ホスピタリティ・コーディネータ教本の熟読）。
評価方法	「ホスピタリティ実践レポート」(2000文字以上/word作成)：100% レポート作成にあたり、書き方やwordの書式など細かいルールがありますのでルールは必ず守ってください。

【使用教科書・教材・参考書】

【教科書】ホスピタリティ・コーディネータ教本/日本ホスピタリティ推進協会
【参考書】図解版ホスピタリティの教科書/林田正光　著

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアサポートアップ （ Improving Career Skills ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田代　マキ
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日4時限

【授業の学習内容】

就職活動の基本である自己分析と企業研究の必要性を学び、志望動機、自己PRを完成させ、履歴書を自立して作成できるようになる。
また発声練習やグループワークを通して、効果的な自己表現を可能にし、自信を持って面接に挑み、結果を手にしていく。

※担当教員実務経験：キャリアカウンセラー（技能士2級）、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリヤ教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。

【到達目標】

面接時に表情豊かに元気に堂々と質問に答えることができる。
文字を丁寧に、起承転結があり、まとまりのある文書が書ける。

授業計画・内容	
1回目	キャリアサポートアップ授業についての説明
2回目	なぜ面接を受けるのか？人は相手の何に影響されるのか？
3回目	自己分析　アウトカム作成　＊小論文の書き方課題発表
4回目	履歴書の書き方
5回目	履歴書の作成　　＊小論文課題提出
6回目	履歴書の作成　提出
7回目	面接練習　姿勢・好感音表情トレーニング　想定質問
8回目	面接練習　一対一　　＊小論文の課題発表
9回目	面接練習　三対三
10回目	集団面接練習　　＊小論文の課題提出
11回目	集団面接練習
12回目	オンライン面接対策
13回目	キャリアサポートアップ授業についての自己分析
14回目	前期テスト
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	内容により事前学習が必要。 課題提出あり。
評価方法	参加態度60% 課題提出40%

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアサポートアップ （ Improving Career Skills ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	榎本　篤子
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

就職活動の基本である自己分析と企業研究の必要性を学び、志望動機、自己PRを完成させ、履歴書を自立して作成できるようになる。
また発声練習やグループワークを通して、効果的な自己表現を可能にし、自信を持って面接に挑み、結果を手にしていく。

※担当教員実務経験：国家資格1級キャリアコンサルティング技能士、キャリアカウンセラー。教育機関や国の若者就職支援センターでのキャリア教育、相談に従事。
企業研修や組織でのカウンセリングも行う。コミュニケーションの重要性を重視し、人の成長をサポートする人材教育に幅広く携わっている。

【到達目標】

面接時に表情豊かに元気に堂々と質問に答えることができる。
文字を丁寧に、起承転結があり、まとまりのある文書が書ける。

授業計画・内容	
1回目	キャリアサポートアップ授業についての説明
2回目	なぜ面接を受けるのか？人は相手の何に影響されるのか？
3回目	自己分析　アウトカム作成　＊小論文の書き方課題発表
4回目	履歴書の書き方
5回目	履歴書の作成　　＊小論文課題提出
6回目	履歴書の作成　提出
7回目	面接練習　姿勢・好感音表情トレーニング　想定質問
8回目	面接練習　一対一　　＊小論文の課題発表
9回目	面接練習　三対三
10回目	集団面接練習　　＊小論文の課題提出
11回目	集団面接練習
12回目	オンライン面接対策
13回目	キャリアサポートアップ授業についての自己分析
14回目	前期テスト
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	内容により事前学習が必要。 課題提出あり。
評価方法	参加態度60% 課題提出40%

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	社会人基礎力 （Essential Competencies for the Working Adult）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	田代　マキ
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日4時限

【授業の学習内容】

経済産業省提唱の社会人基礎力の12の能力要素に沿って、ワークを通して自己肯定感、他者肯定感を高め、問題解決能力を磨く。

※担当教員実務経験：キャリアカウンセラー（技能士2級）、精神保健福祉士、公認心理師、学校関係へのキャリヤ教育や企業研修を通して社会人基礎力の授業や管理職研修を行い、就職支援からリーダシップの在り方まで、働く人の心と職場環境を整える活動を展開している。

【到達目標】

主体性を発揮できるようになる。
考える力を身につける。
チームで働く意識を強める。
計画、実行、忍耐力を身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	社会人基礎力の説明
2回目	規律性とビジネスマナー　＊ルールとマナー
3回目	課題発見力 ① 個人ワークとグループワーク 気付きの習慣を磨く
4回目	課題発見力 ② 個人ワークとグループワーク
5回目	状況把握力 ①提案力改善案スピーチ
6回目	状況把握力 ②提案力改善案スピーチ
7回目	中間評価
8回目	計画力 優先順位の付け方 PDCAサイクルについて
9回目	身近なPDCAサイクル発表 他者の行動を参考 モデリングする。
10回目	スモールステップからの現実可能なキャリアデザインを描く
11回目	実行力 マンパワーワーク
12回目	柔軟性　9人のポジション
13回目	働きかけ力 社会人としての役割を知る。
14回目	評価テスト
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	参加態度50% 傾聴力30% 筆記試験20%

【使用教科書・教材・参考書】

講師オリジナルテキスト
社会人基礎力講座（日経BP社）7つの習慣（宝島社）PDCAノート（フォレスト出版）他

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	社会人基礎力 （Essential Competencies for the Working Adult）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	榎本　篤子
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （２）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

経済産業省提唱の社会人基礎力の12の能力要素に沿って、ワークを通して自己肯定感、他者肯定感を高め、問題解決能力を磨く。

※担当教員実務経験：国家資格1級キャリアコンサルティング技能士、キャリアカウンセラー。教育機関や国の若者就職支援センターでのキャリア教育、相談に従事。
企業研修や組織でのカウンセリングも行う。コミュニケーションの重要性を重視し、人の成長をサポートする人材教育に幅広く携わっている。

【到達目標】

主体性を発揮できるようになる。
考える力を身につける。
チームで働く意識を強める。
計画、実行、忍耐力を身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	社会人基礎力の説明
2回目	規律性とビジネスマナー　＊ルールとマナー
3回目	課題発見力 ① 個人ワークとグループワーク 気付きの習慣を磨く
4回目	課題発見力 ② 個人ワークとグループワーク
5回目	状況把握力 ①提案力改善案スピーチ
6回目	状況把握力 ②提案力改善案スピーチ
7回目	中間評価
8回目	計画力 優先順位の付け方 PDCAサイクルについて
9回目	身近なPDCAサイクル発表 他者の行動を参考 モデリングする。
10回目	スモールステップからの現実可能なキャリアデザインを描く
11回目	実行力 マンパワーワーク
12回目	柔軟性　9人のポジション
13回目	働きかけ力 社会人としての役割を知る。
14回目	評価テスト
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	課題により準備学習あり。また、少しずつ知識を積み重ねてできる自分を確信するために、毎時間最初の時間を使って今までの前回までの学習の復習問題を発表します。そのために毎回の事前学習、事後復習を必須とする。
評価方法	参加態度50% 傾聴力30% 筆記試験20%

【使用教科書・教材・参考書】

講師オリジナルテキスト
社会人基礎力講座（日経BP社）7つの習慣（宝島社）PDCAノート（フォレスト出版）他

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	マネジメント（ Management ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中村　元洋
		授業形態	演習	総時間（単位）	30（２）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日　2時限・水曜日1時限

【授業の学習内容】

マネジメントの概要と基礎を学ぶ。以下、具体的な内容である。
1)リスク認識力～冷静に何がリスクか認識でき、回避行動が取れる。
2)判断力～多様な問題を検討し、ブレずに主体的に最善の判断をし、決断ができる。
3)課題認識力～組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標が立てられる。
4)計画立案力～目標達成のための手段を選択でき、計画が立てられる。
5)目標管理力～刻々と変化する環境下、計画や手段を修正しながら、粘り強く達成への努力が続けられる。
6)顧客満足力～顧客など組織外の利害関係者の期待に応えることができる。
7)調整・交渉力～組織内外の利害関係者に対して交渉・調整ができる。
8)組織運営力～組織メンバーとコミュニケーションを取りながら動き、部下の能力を結集できる。

※担当教員実務経験：企業や社会人資格取得学校においてコーチングやリーダーシップ、心理学を取り入れた研修及び講座、カウンセリングに従事。

【到達目標】

マネジメント（組織管理や運営）の基礎の習得。具体的には、以下の目標。
①あるべき姿と現場のギャップを的確に発見して、組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標を立てる。
②課題の解決に向けて、周囲の認識を共通のものにし、部署・組織全体と連携した行動により、自身の提案を実現する。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：授業の進め方、自己紹介、なぜ、マネジメントの授業を行うのか？マネジメントの目的とは
2回目	マネジメント基礎知識：マネジメントの役割・マネジメントの社会での必要性・マネジメントとマネージャとリーダシップとは？
3回目	マネジメントの種類：様々なマネジメントを知る　事例研究など
4回目	マネジメントとリーダー：社会（企業）が求める「リーダー像」を確認 それぞれが思う、「自分がなりたいリーダー像」を確認
5回目	リーダーシップとは？：リーダーとリーダーシップの違いについて理解を深める
6回目	リーダーシップを発揮する要素：自分の中にある3つの要素を見つけ、その活かし方を学ぶ
7回目	効果的な意思表示：自己の感情表現タイプをチェックし、効果的な意思表示について学ぶ
8回目	アンガーマネジメント：感情についての理解を深め、アンガーマネジメント法の基礎を学ぶ
9回目	関わり方：「物事の進め方のタイプ」について理解を深める
10回目	チームマネジメント①：グループで関わることについての理解を深める
11回目	チームマネジメント②：会議・ミーティングについて学ぶ
12回目	リーダーシップとスポンサーシップ：信頼関係の構築する関わりについて学ぶ
13回目	全体発表：学んだこと・発見したこと・印象残ったことを通して、今後、どう活かしていくのか？考えをまとめ、発表する
14回目	試験：筆記テストと実技を実施し、これまでの学びの復習と理解度を図る
15回目	まとめ・振り返り
準備学習 時間外学習	時間外学習：提出される課題を実施しレポート提出。推薦図書の熟読。
評価方法	●試験　：70点 ●課題　：30点（課題提出状況）

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材：講師作成資料
参考図書：「サクッとわかるビジネス教養 マネジメント」「アドラー関連書籍」「マーケティング見るだけノート」など

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	マネジメント （ Management ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中村　元洋
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （ 2 ）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日　2時限・水曜日１時限

【授業の学習内容】

マネジメントの概要と基礎を学ぶ。以下、具体的な内容である。
1)リスク認識力～冷静に何がリスクか認識でき、回避行動が取れる
2)判断力～多様な問題を検討し、ブレずに主体的に最善の判断をし、決断ができる
3)課題認識力～組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標が立てられる
4)計画立案力～目標達成のための手段を選択でき、計画が立てられる
5)目標管理力～刻々と変化する環境下、計画や手段を修正しながら、粘り強く達成への努力が続けられる
6)顧客満足力～顧客など組織外の利害関係者の期待に応えることができる
7)調整・交渉力～組織内外の利害関係者に対して交渉・調整ができる
8)組織運営力～組織メンバーとコミュニケーションを取りながら動き、部下の能力を結集できる

※担当教員実務経験：　2016年3月～企業や社会人資格取得学校において、コーチングやリーダーシップ、心理学を取り入れた研修及び講座、カウンセリングを実施。

【到達目標】

マネジメント（組織管理や運営）の基礎の習得。具体的には、以下の目標。
①あるべき姿と現場のギャップを的確に発見して、組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標を立てる。
②課題の解決に向けて、周囲の認識を共通のものにし、部署・組織全体と連携した行動により、自身の提案を実現する。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：前期で学んだことに関する振り返り、取り組みに関する感想のシェア、質問や事例対応、後期授業の説明
2回目	コーチングとは：コーチングについての基本的な知識
3回目	セルフコーチングとは：自身に行うコーチングについての基礎的知識
4回目	スタッフマネジメント：信頼関係のプロセス　信頼関係を築くスキル
5回目	傾聴とは？：傾聴の基本的な知識を学習
6回目	効果的な質問：質問への理解を深め、実践しながら質問の使い分けを身につける
7回目	効果的な言葉がけ：言語が与える影響について学ぶ
8回目	ケーススタディ～上司～：身近な人、考えられる人の対応について実践しながら学ぶ
9回目	ケーススタディ～部下～：身近な人、考えられる人の対応について実践しながら学ぶ
10回目	コーチング的目標設定：目標達成、コーチングの効果を高める
11回目	違う視点での目標設定：目標設定の別のやり方について学び、目標達成力をさらに高める
12回目	フューチャーペーシング：セルフコーチングを実施し、マインドマップ・未来予想図を作成する
13回目	全体発表：これまで学んだこと、今後の自身の展開予想を発表
14回目	試験：筆記テストと実技を実施し、これまでの学びの復習と理解度を図る
15回目	まとめ・振り返り
準備学習 時間外学習	時間外学習：提出される課題を実施しレポート提出。推薦図書の熟読。
評価方法	●試験　：70点 ●課題　：30点（課題提出状況）

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材：講師作成資料
参考図書：「コーチングの基本」「コーチングが人を動かす」など

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	グローバルコミュニケーション （Global Communivcation）	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	120 (8)	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限、水曜日4時限、木曜日1-3時限、金曜日1・3時限

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、
また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

知人・家族について話すことができる。職場でのフォーマルなメールを読む、また書くことができる。毎日していることについて話すことができる。
ポッドキャストについての意見を読む、また書くことができる。今していることについて話すことができる。サービス業界の会社へのメッセージを読む、
また書くことができる。招待する、またそれに応えることができる。イベントへの招待を読む、また書くことができる。人生の中での過去のイベントに
ついて話すことができる。新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書くことができる。
店内で欲しいものについて述べることができる。新しい商品の説明を読む、またVlog（ビデオブログ）のためのスクリプトを書くことができる。

授業計画・内容			
1回目	所有代名詞(whose)を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	自己紹介をする。職場でのフォーマルなメールを読む、書く	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	習慣・ルーティンについて質問する。[Wh-question]を練習する	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	繰り返しを求める表現を学ぶ。意思疎通に問題があったことを説明する	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「仕事や勉強のためのアプリについて発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
6回目	「現在進行形」「単純現在形」を練習する。スポーツ、運動について話す	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	サービス業界の会社へのメッセージを読む、書く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	将来のことを説明する際に使う「現在進行形」を学ぶ。将来のプランについて話す	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	招待する、招待に応える表現を学ぶ。招待を断る理由を説明する	オンデマンド	対面授業と連動
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「プレゼントを選ぶについて」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	「過去形」（陳述文の否定形；疑問文）を復習する	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書く	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	[be going to]を復習する買い物に行くことについて会話する	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	店内で欲しいものについて述べる。物事の言い方を英語で聞く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE2

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	グローバルコミュニケーション （Global Communivcation）	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	120 (8)	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日1時限、水曜日4時限、木曜日1-3時限、金曜日1・3時限

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、
また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

レストランで頼みたいものについて説明することができる。ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書くことができる。
提案をする、また提案をうけることができる。海外生活についてのアドバイスを読む、また書くことができる。意見を尋ねる、また述べることができる。
広告を読む、また写真の説明を書くことができる。将来の予想を立てることができる。アドバイスについてのメールを読む、また書くことができる。
したことがあること、ないことについて話すことができる。インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書くことができる。
天気について話すことができる。場所についての説明を読むことができる。方法についての説明リストを書くことができる。

授業計画・内容			
1回目	キッチンカーをデザインする「動詞型」を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書く	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	[if / when]の使い方を学ぶ。自分の町で何をするかについて話す	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	「問い返し疑問文」を学ぶ。提案をする、また提案をうける表現を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「短期旅行のプランを立てる」	オンデマンド	対面授業と連動
6回目	「形容詞の最高級」を学ぶ。写真に写った人について話す	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	広告を読む、また写真の説明を書く	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[have to]の使い方を学ぶ。職場での危険を回避することについて話す	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	[It feels like (it's like)]を使い、健康問題について話す；健康問題についてアドレスをもらう	オンデマンド	対面授業と連動
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「リアリティ番組を計画し、発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	ソーシャルメディア（ネット）生まれの動詞を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書く	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	[be like]を使い、天気について話す	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	道を聞く、道順を教える際に使う表現を学ぶ。言い改める際に使う表現を学ぶ、復習する	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE2

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	次世代のための環境教育 （Environmental Study for the Next Generation）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	大橋 光雄
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日　1、2時限

【授業の学習内容】

環境問題の概略を理解し、ジレンマや事例研究を参考にトリレンマ懸案をどのように自分たちの職場や社会にしていくか、またワークショップ（workshop）を用い読み解く力をつける。

※担当教員実務経験：福岡県キャンプ協会会長歴任後、現名誉会長。（公益社）日本キャンプ協会　元理事・専門委員。
アメリカ冒険学校「THE NATIONAL OUTDOOR LEADERSHIP SCHOOL」へ留学、WRWコース終了。
キャンプディレクター1級とプロジェクトワイルド上級指導者資格を有し、多くのキャンプイベントや執筆、普及活動に携わる。

【到達目標】

自分たちの業界と環境問題のつながりを知り、環境教育の必要性と目的を理解する。また、自然環境の一員としての人間の位置づけを環境倫理の面から掘り下げて考察する。
その上で主に9のカテゴリーで環境教育を紐解き多様な考えや社会経済との結びつきを考えることができるようになる。
各時間の授業のPPTを用い内容にそった講義とワークショップ（workshop）を通して理解を深めるようにする。
また、実際に今の環境教育が考えられるように新聞報道や環境教育の取り組みアクティビティ等演習を実施する。

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス・環境教育の必要性と目的
2回目	世界の環境問題1（地球温暖化）海洋のメカニズム
3回目	世界の環境問題2（海洋と生物多様性）仕組みと身近な事例
4回目	世界の環境問題3（オゾン層の破壊）
5回目	世界の環境問題4（海洋汚染～ゴミ問題～食糧問題）
6回目	環境問題の啓発者の探る1．Severn Cullis-Suzuki　リオの伝説のスピーチを読み解く
7回目	環境問題の啓発者の探る2．　世界の環境教育の流れ「ベオグラート憲章」
8回目	職場を取り巻く環境問題　　日本の環境教育の流れ「関心・理解・行動」
9回目	環境教育における環境倫理　酸性雨・海洋汚染　マイクロプラスチック
10回目	環境教育における環境倫理　有害廃棄物の越境移動　マイクロプラスチック
11回目	環境教育における環境倫理　野生生物種の減少1
12回目	環境教育における環境倫理　野生生物種の減少2
13回目	環境教育における環境倫理　ジレンマからトリレンマ　砂漠化　異常気象
14回目	理解度の確認　Q&A　環境クイズ　エコ検定
15回目	試験の解説と補足
準備学習 時間外学習	毎回動画や新聞を題材に用いアクティブラーニングESD（Education for Sustainable Development）　SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）等を用いる。世界の動きやニュースソースに関心を持ち環境用語を理解しておくこと。
評価方法	定期試験:80% 発表:10% 受講出席率:10%

【使用教科書・教材・参考書】

適宜　資料を配布する。 また授業理解のためのミニテストを行う。

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	次世代のための環境教育 (Environmental Study for the Next Generation)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	大橋 光雄
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日　1、2時限

【授業の学習内容】

環境問題の概略を理解（SDGs17のターゲット目標）その解決に向けて主に社会や職場で環境教育に関する話ができるように現場を念頭に置いて授業を行う。

※担当教員実務経験：福岡県キャンプ協会会長歴任後、現名誉会長。（公益社）日本キャンプ協会　元理事・専門委員。
アメリカ冒険学校「THE NATIONAL OUTDOOR LEADERSHIP SCHOOL」へ留学、WRWコース終了。
キャンプディレクター1級とプロジェクトワイルド上級指導者資格を有し、多くのキャンプイベントや執筆、普及活動に携わる。

【到達目標】

環境問題の概略を知り、環境教育の必要性と目的を理解する。また、自然環境の一員としての人間の位置づけを環境倫理の面から掘り下げて考察する。
その上で主に職場中で環境教育を実践できるようになると同時に、社会での教育活動の中でもどのような活動ができるか考えることができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス・環境教育の必要性と目的　ESD　SDGs
2回目	世界の環境問題1（地球温暖化、酸性雨など）
3回目	世界の環境問題2（オゾン層の破壊、生物多様性減少など）
4回目	世界の環境問題3（エネルギー問題、人口・食糧問題）
5回目	環境教育のパイオニアを知る
6回目	環境系ゲーム　ESD　SDGs
7回目	世界の環境教育の流れ　環境系ゲーム　ESD　SDGs
8回目	環境教育における環境倫理 CSR CSV（企業の社会的責任）
9回目	日本の環境教育の流れ「関心・理解・行動」と世界の動きSDGs17のターゲット目標
10回目	就職現場での環境教育の位置づけと課題　「観光地の環境問題」
11回目	就職現場の中での実践1（全体計画、年間指導計画、（1））
12回目	就職現場の中での実践2（全体計画、年間指導計画、（2））
13回目	現場での環境問題と私たちにできること　ISO　ルール取り決め
14回目	理解度の確認　Q&A　環境クイズ
15回目	試験の解説と補足
準備学習 時間外学習	毎回動画や新聞を題材に用いアクティブラーニングESD（Education for Sustainable Development）　SDGs (Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)等を用いる。世界の動きやニュースソースに関心を持ち環境用語を理解しておくこと。
評価方法	定期試験:70% 発表:15% 受講出席率:15%

【使用教科書・教材・参考書】

適宜　資料を配布する。
また授業理解のためのミニテストを行う。
毎回動画やニュースソース題材に選ぶ
アクティブラーニングESD（Education for Sustainable Development）　SDGs (Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標)等を用いる。

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物園飼育論Ⅱ （ Zoo Keeping Theory Ⅱ ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	福井　智太
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日　2、3時限

【授業の学習内容】

1年時に学んだ動物園動物の飼養管理を基により深く理解し、説明できるようになる。また、飼育現場の実例を基に、実践的知識をつけ説明できるようになる。

※担当教員実務経験：九州自然動物園アフリカンサファリに3年間勤務。ふれあいゾーンにて小動物、中型・草食動物、家畜動物の飼育とふれあい業務および、サファリゾーンにて中型～大型草食動物、アメリカクロクマなどの飼育展示業務を経験。到津の森公園に10年間勤務。日本産動物（小型哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類）、大型草食動物、大型肉食動物、類人猿、霊長類、鳥類の飼育展示業務および、来園者向けの環境学習、体験型講座、企画展など学習イベントの企画・運営業務、大型動物・特定動物担当班の班長業務に従事。

【到達目標】

・動物園で使用する専門的な用語について説明できるようになる。
・飼育動物の状態や飼育環境の状況にあわせて、適切な対処をするために必要な思考や視点の基礎を身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	シラバスを用いて授業内容の説明、動物についての知識を学ぶ理由の解説
2回目	イレギュラーな動物管理①人工保育（講義・グループワーク）
3回目	イレギュラーな動物管理②蹄が伸びすぎたシマウマ（講義・グループワーク）
4回目	動物の移動①キリン・シマウマ・チンパンジーの搬出と作業
5回目	動物の移動②BLによる全国規模の動物移動（例：フクロテナガザル）
6回目	環境エンリッチメントの実例（講義・グループワーク）
7回目	各種事例紹介①（臼歯摩耗によるキリン死亡、有毒植物の給与による中毒など）
8回目	死亡した動物の処理（解剖・解体・処分・活用など）
9回目	老齢個体への対応（グループワーク）
10回目	動物園における各種会議・研修会の紹介
11回目	イレギュラーな動物管理③足裏が化膿したゾウ
12回目	飼育員の仕事のマニュアル化について(グループワーク)
13回目	飼育上の困難に直面した時の対応（グループワーク）
14回目	レポート作成（前期評価対象）および振り返り
15回目	試験返却、学習内容の復習
準備学習 時間外学習	授業前までにハンドブックまたは他資料の該当するページを読み込み予習する。 また、授業内容はノートにまとめ知識習得に努める。 調べ学習等の課題に取り組み提出する。
評価方法	出席率：30% 授業態度・グループワーク成果：20% 評価対象レポート：50%

【使用教科書・教材・参考書】

【使用する教科書】 飼育ハンドブック①～⑤
【参考資料】
・動物園のHP（飼育員による研究発表や飼育管理の工夫に関するブログなど）
・各種動物研究団体のHP（エンリッチメント:SHAPE-japan、霊長類：京都大学霊長類研究所、類人猿：SAGA(大型類人猿を支援する集い)など掲載資料
・動物園および動物研究団体公式の配信動画など
・講師が飼育員在職中に撮影した写真および映像資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	コンパニオンアニマル (Companion Animals)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	川島　秀樹
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 （2）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日2、3時限

【授業の学習内容】

犬猫の歴史についてはペットショップで生体販売するときに顧客に説明できるよう世界的な流れを学ぶ。また、ショップ以外の動物園他の関連業務でも説明の必要が出てくるのでペット化した流れを習得する。とくに猫は近年の「猫ブーム」とともに飼育家庭が増加傾向にあるため適正な飼育管理ができるよう体のつくりや習性・行動を学ぶとともにワクチンワーク等も「なぜ必要か？」「いつ必要か？」を他者に説明できるよう知識の習得を図る。

※担当教員実務経験：2003年よりペットショップ開業・経営～現在に至る。2001年より日本FP協会所属のファイナンシャルプランナーとしても活動。

【到達目標】

ペットショップはもちろん、他の動物関連職業でも応用できるように犬・猫の家畜化の歴史、本来持つべき行動・習性、その為の体のつくりのほかストレスの少ない飼育管理に必要な知識と適応能力を身に着け、顧客にアドバイスできるようになる。
具体的な目標①　動物(特に犬や猫)の家畜化までの歴史を学び、顧客に説明できるようになる。
具体的な目標②　猫の習性や行動を知り、適正な飼育管理方法を顧客にアドバイスができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	授業内容の説明、スケジュール紹介・評価基準説明と各自の自己紹介
2回目	犬猫の歴史①（ミアキスからペットとしての犬猫までと人間との関わり）
3回目	犬猫の歴史②（人間との共生・古代から近代）
4回目	犬猫の歴史③（使役動物としての犬、ペットとしての猫）
5回目	犬猫の歴史の総括、猫の体の疑問（グループワーク）
6回目	中間テスト及び振り返り
7回目	猫の体①（骨格・筋肉等）
8回目	猫の体②（感覚器）
9回目	猫の体③（感覚器としてのヒゲの役割）
10回目	猫の体総括、修正・行動の疑問（グループワーク）
11回目	猫の行動・習性①（テリトリー等）
12回目	猫の行動・習性②（マーキング等）
13回目	猫の行動・習性③（コミュニケーション等）
14回目	前期評価テスト及び振り返り
15回目	評価テストの解説、猫のまとめ
準備学習 時間外学習	この授業においては各単元ごとの初めにオリジナルプリント（犬猫の歴史・猫の百科事典・猫学教本等からの抜粋で作成）を配布する。その為、事前に目を通しておくことが大切。また、各論として内容により次週学習することの一部を下調べをしておくことを授業中に発表する（ネット等で簡単に調べられるもの）ので準備学習を要する。
評価方法	前期末の評価テストを中心にする（内容は前期に学習したこと全部）・・・60% 中間テスト・・・30% 授業内評価（傾聴力・発言力）・・・10%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント（猫の百科事典・猫学教本等からの抜粋で作成）、ブルーレイディスク等

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	コンパニオンアニマル (Companion Animals)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	川島　秀樹
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 （2）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日2、3時限

【授業の学習内容】

当たり前に知っているであろう犬という動物について専門家としてペットショップで生体販売するときに顧客に説明できるよう「体のつくり」「本能に基づく習性・行動」を学ぶ。また、ショップ以外の動物園他の関連業務でも説明の必要が出てくるので他の動物との比較も習得する。とくに犬は人との関わりが最も古い動物として人間社会での共生の実態を学習するとともに、適正な飼育管理ができるよう体のつくりや習性・行動を学ぶ。また、ワクチンワーク等も「なぜ必要か？」「いつ必要か？」を他者に説明できるよう知識の習得を図る。更に、犬猫の病気・ズーノーシスについても動物業務に携わる者として知っておくべきことを習得する。

※担当教員実務経験：2003年よりペットショップ開業・経営～現在に至る。2001年より日本FP協会所属のファイナンシャルプランナーとしても活動。

【到達目標】

ペットショップはもちろん、他の動物関連職業でも応用できるように犬・猫の家畜化の歴史、本来持つべき行動・習性、その為の体のつくりのほかストレスの少ない飼育管理に必要な知識と適応能力を身に着ける。
具体的な目標①　犬の習性や行動を学び、顧客に説明できるようになる。
具体的な目標②　犬の体のつくりを理解し、顧客にアドバイスができるようになる。
具体的な目標③　犬猫の病気・ズーノーシスを学習し、動物業務従事者として適正な飼育管理ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	犬という動物の本能
2回目	犬の行動・習性①（本能に基づく行動）
3回目	犬の行動・習性②（動物業務従事者としての実務）
4回目	犬の行動・習性③（まとめ）グループワーク
5回目	犬の体①（骨格・筋肉等）
6回目	犬の体②（感覚器等）
7回目	中間テスト及び振り返り
8回目	犬の体③（生理値の観察・測定方法、まとめ）
9回目	人と犬の社会（人との関わり、使役・産業動物）
10回目	犬猫の病気①（感染症、対策としてのワクチン）
11回目	犬猫の病気②（寄生虫等外部要因）
12回目	犬猫の病気③（中毒や現代疾患）
13回目	ズーノーシス
14回目	後期評価テスト及び振り返り
15回目	テストの解説、犬・病気のまとめ（グループワーク）
準備学習 時間外学習	この授業においては各単元ごとの初めにオリジナルプリント（犬猫の歴史・猫の百科事典・猫学教本等からの抜粋で作成）を配布する。その為、事前に目を通しておくことが大切。また、各論として内容により次週学習することの一部を下調べをしておくことを授業中に発表する（ネット等で簡単に調べられるもの）ので準備学習を要する。
評価方法	前期末の評価テストを中心にする（内容は前期に学習したこと全部）・・・60% 中間テスト・・・30% 授業内評価（傾聴力・発言力）・・・10%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント（猫の百科事典・猫学教本等からの抜粋で作成）、ブルーレイディスク等

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物の繁殖 （ Breeding of Animals ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	井上　龍介
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （ 2 ）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日1or3時限

【授業の学習内容】

動物の繁殖は、飼育現場で関わりの深い分野で、動物の種類や状況に合う環境をつくる技術や観察力が求められることも多い。
この授業では、様々な動物の繁殖のメカニズムや殖 繁殖行動について、詳しく学習する。

※担当教員実務経験：1981年～「海の中道海浜公園　動物の森」立ち上げから20年以上責任者として携わり、園内の動植物の飼育管理の他獣舎や展示場の設計にも携わる。
動物園における飼育技術を現場で実践。

【到達目標】

①動物園動物の繁殖の現状・注意点・工夫などについて理解する、各動物の繁殖のメカニズムや、不妊去勢手術のメリット・デメリットについて理解する。
②目標①の内容について、説明ができる。
③飼育現場で繁殖に適した環境づくりや、動物の行動観察ができる。

授業計画・内容	
1回目	授業の目的、進め方
2回目	犬の繁殖のメカニズム①
3回目	犬の繁殖のメカニズム②
4回目	猫の繁殖のメカニズム①
5回目	猫の繁殖のメカニズム②
6回目	犬猫の不妊去勢手術のメリット・デメリットについて①
7回目	犬猫の不妊去勢手術のメリット・デメリットについて②
8回目	中間評価試験及び振り返り
9回目	振り返り②
10回目	動物園動物の繁殖の目的・特徴など（総論）
11回目	動物園動物（肉食獣）の繁殖について①
12回目	動物園動物（肉食獣）の繁殖について②
13回目	動物園動物（肉食獣）の繁殖について③
14回目	期末評価試験及び振り返り
15回目	振り返り②
準備学習 時間外学習	授業内容のほとんどが初めて学習する内容となるため、理解できるまで時間をかけて説明する。初めて学習する内容は、特に授業中での理解を確実なものにして、もう一度整理する作業、復習が重要になる。授業の板書をノートに書き、さらに授業中の解説の内容をノートにメモし、授業後にノートを見直して内容を確認しておくと目標を達成しやすくなる。授業の冒頭で前回の授業のまとめを、授業の最後で当日の授業のまとめを行うので、内容の整理に使うと効果的。繁殖に関する専門用語に関しては、その都度解説を行う。
評価方法	・筆記試験70% ・授業内評価（課題への取り組み、レポートの等）30%

【使用教科書・教材・参考書】

・社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編1　繁殖・飼料・病気」
・滋慶教育科学研究所監修「イラストで見る動物の体のしくみ（生殖器系　内分泌系）」

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物の繁殖 （ Breeding of Animals ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	井上　龍介
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （ 2 ）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	未定

【授業の学習内容】

動物の繁殖は、飼育現場で関わりの深い分野で、動物の種類や状況に合う環境をつくる技術や観察力が求められることも多い。
この授業では、様々な動物の繁殖のメカニズムや殖 繁殖行動について、詳しく学習する。

※担当教員実務経験：1981年～「海の中道海浜公園　動物の森」立ち上げから20年以上責任者として携わり、園内の動植物の飼育管理の他獣舎や展示場の設計にも携わる。
動物園における飼育技術を現場で実践。

【到達目標】

①動物園動物の繁殖の現状・注意点・工夫などについて理解する、各動物の繁殖のメカニズムや、不妊去勢手術のメリット・デメリットについて理解する。
②目標①の内容について、説明ができる。
③飼育現場で繁殖に適した環境づくりや、動物の行動観察ができる。

授業計画・内容	
1回目	繁殖時に多い問題や病気について（総論）①
2回目	繁殖時に多い問題や病気について（総論）②
3回目	サル類の繁殖について①
4回目	サル類の繁殖について②
5回目	草食獣の繁殖について①
6回目	草食獣の繁殖について②
7回目	中間評価試験及び振り返り
8回目	有袋類の繁殖について
9回目	鳥類の繁殖について①
10回目	鳥類の繁殖について②
11回目	家畜の繁殖について
12回目	爬虫類の繁殖について①
13回目	爬虫類の繁殖について②
14回目	期末評価試験及び振り返り
15回目	振り返り②
準備学習 時間外学習	授業内容のほとんどが初めて学習する内容となるため、理解できるまで時間をかけて説明する。初めて学習する内容は、特に授業中での理解を確実なものにして、もう一度整理する作業、復習が重要になる。授業の板書をノートに書き、さらに授業中の解説の内容をノートにメモし、授業後にノートを見直して内容を確認しておくと目標を達成しやすくなる。授業の冒頭で前回の授業のまとめを、授業の最後で当日の授業のまとめを行うので、内容の整理に使うと効果的。繁殖に関する専門用語に関しては、その都度解説を行う。
評価方法	・筆記試験70% ・授業内評価（課題への取り組み、レポートの等）30%

【使用教科書・教材・参考書】

・社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編1　繁殖・飼料・病気」
・滋慶教育科学研究所監修「イラストで見る動物の体のしくみ（生殖器系　内分泌系）」

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	動物飼育演習Ⅱ （ Practice of Animal Keeping－Ⅱ ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	大牟田市動物園
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限

【授業の学習内容】

大牟田市動物園における動物福祉の向上を目的としたさまざまな取り組みについて学び、動物福祉について理解を深める。

※担当教員実務経験：大牟田市動物園にて勤続5年以上の職員が授業を担当。

【到達目標】

・動物福祉の考えや取り組みを理解することができる。
・動物園の広報をはじめとする、「伝える」という業務について理解することができる。

授業計画・内容	
1回目	動物園紹介、動物福祉
2回目	動物行動学
3回目	環境エンリッチメント
4回目	行動分析学
5回目	ハズバンダリートレーニング
6回目	動物園の広報
7回目	小動物の飼育
8回目	動物愛護と動物福祉
9回目	プレゼンテーション①
10回目	園内実習
11回目	園内実習
12回目	園内実習
13回目	動物園への就職
14回目	プレゼンテーション②
15回目	質疑応答
準備学習 時間外学習	プレゼンテーション①終了後、プレゼンテーション②までに、プレゼンテーションを各自作成。 また、授業内容はノートにまとめ知識習得に努めること。
評価方法	授業内評価（傾聴力・発言力等）50%、出席率50%

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：動物福祉学（昭和堂）、モルモット完全飼育（誠文堂新光社）、改訂版 新・飼育ハンドブック 動物園編5（JAZA）、動物行動図説（朝倉書店）
野生動物の行動観察法（東京大学出版会）、行動分析学入門（産業図書）、プログラム学習で学ぶ行動分析学ワークブック（学苑社）

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	小動物飼育演習Ⅱ （ Practical Small Animal Care－Ⅱ ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	椎場　瞳
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 （ 4 ）	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時（1週間×2回）

【授業の学習内容】

小動物を中心に体のしくみや生態を理解した上で飼育管理を行う。
また、スチューデントティーチャーとして1年生へ飼育指導を行う。

※担当教員実務経験：サファリパークにて3年間の飼育員経験有。サルや鳥類、クマ等様々な動物の飼育のほかワラビーの人工保育といった繁殖にも携わる。

【到達目標】

1年生が各種動物に合った飼養管理を理解し、説明できるようになる。
相手が理解できる伝え方を身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	授業の流れ・注意点等説明、掃除・調餌・給餌について伝える①
2回目	授業の流れ・注意点等説明、掃除・調餌・給餌について伝える②
3回目	授業の流れ・注意点等説明、掃除・調餌・給餌について伝える③
4回目	飼育管理の実践①
5回目	飼育管理の実践②
6回目	飼育管理の実践③
7回目	飼育管理の実践④
8回目	飼育管理の実践⑤
9回目	飼育管理の実践⑥
10回目	飼育管理の実践⑦
11回目	飼育管理の実践⑧
12回目	飼育管理の実践⑨
13回目	飼育管理の実践⑩
14回目	飼育管理の実践⑪
15回目	飼育管理の実践⑫、前期の振り返り
準備学習 時間外学習	授業終了後に報告書を作成し、内容を振り返る。また、次回授業に向け目標を立てること。
評価方法	授業内実習評価（協調性、コミュニケーション力、発言力、レポート記入力）80%、出席率20%

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：滋慶教育科学研究所監修「イラストで見る動物の飼養管理」、「イラストで見る動物の体のしくみ」
社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編 1 繁殖・飼料・病気」

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	小動物飼育演習Ⅱ （ Practical Small Animal Care-Ⅱ ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	椎場　瞳
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 （ 4 ）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時（1週間×2回）

【授業の学習内容】

小動物を中心に体のしくみや生態を理解した上で飼育管理を行う。
また、スチューデントティーチャーとして1年生へ飼育指導を行う。

※担当教員実務経験：サファリパークにて3年間の飼育員経験有。サルや鳥類、クマ等様々な動物の飼育のほかワラビーの人工保育といった繁殖にも携わる。

【到達目標】

1年生が各種動物に合った飼養管理を理解し、説明できるようになる。
相手が理解できる伝え方を身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる①
2回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる②
3回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる③
4回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる④
5回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑤
6回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑥
7回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑦
8回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑧
9回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑨
10回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑩
11回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑪
12回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑫
13回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑬
14回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑭
15回目	飼育管理の実践　時間内に掃除・調餌ができるようになる⑮、後期の振り返り
準備学習 時間外学習	授業終了後に報告書を作成し、内容を振り返る。また、次回授業に向け目標を立てること。
評価方法	授業内実習評価（協調性、コミュニケーション力、発言力、レポート記入力）80%、出席率20%

【使用教科書・教材・参考書】

参考書：滋慶教育科学研究所監修「イラストで見る動物の飼養管理」、「イラストで見る動物の体のしくみ」
社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編 1 繁殖・飼料・病気」

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	動物の栄養 (Animal Nutrition)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中本　教一
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4、5時限

【授業の学習内容】

動物が必要とする栄養素と飼料に含まれる栄養素について学び、次に消化と吸収に関して動物による消化管の違いと特徴を知り、代表的な飼料の特徴を学ぶ。
続いて、飼料の組み立てに必要な知識と養分計算を学び、飼料配分に取り組む。

※担当教員実務経験：酪農大学教師、肉牛の肥育を経て1982年「中本乗馬倶楽部」を設立、先代オーナー、現会長。
福岡県馬術連盟副会長、日本馬術連盟公認1級審判、全国乗馬倶楽部指導員。

【到達目標】

各栄養素についてその特徴が理解できた上で、自身で飼料の組み立てに取り組めるようにその基礎となる知識と養分計算の仕方ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	授業の概要、目的、内容の説明。(1)飼料摂取の目的
2回目	(2)体成分と栄養素　①体成分　②水
3回目	(2)体成分と栄養素　③タンパク質・必須アミノ酸
4回目	(2)体成分と栄養素　④炭水化物　⑤脂質
5回目	(3)体成分と栄養素　⑥ビタミン(脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン)
6回目	(4)体成分と栄養素　⑥ビタミン
7回目	中間評価及び振り返り　(2)体成分と栄養素　⑦ミネラル(多量元素と微量元素)
8回目	(2)体成分と栄養素　⑦ミネラル
9回目	(3)栄養と飼料　①各家畜が好む飼料と消化管の特徴
10回目	(3)栄養と飼料　②消化と吸収
11回目	(3)栄養と飼料　②消化と吸収(消化管の構造と役割：単胃動物)
12回目	(3)栄養と飼料　②消化と吸収(消化酵素)
13回目	(3)栄養と飼料　②消化と吸収(反芻動物・鶏の消化管の構造と役割)
14回目	前期評価及び振り返り
15回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　①飼料成分による栄養価とその特徴
準備学習 時間外学習	授業の最初に前回の振り返りをする為、各自ノートの読み返しをし、復習に努めること。
評価方法	筆記試験(80%)、授業内評価(傾聴力・発言力)(20%)

【使用教科書・教材・参考書】

参考プリント、プロジェクター
参考書：社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編 1 飼料」

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	動物の栄養 (Animal Nutrition)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中本　教一
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4、5時限

【授業の学習内容】

動物が必要とする栄養素と飼料に含まれる栄養素について学び、次に消化と吸収に関して動物による消化管の違いと特徴を知り、代表的な飼料の特徴を学ぶ。
続いて、飼料の組み立てに必要な知識と養分計算を学び、飼料配分に取り組む。

※担当教員実務経験：酪農大学教師、肉牛の肥育を経て1982年「中本乗馬倶楽部」を設立、先代オーナー、現会長。
福岡県馬術連盟副会長、日本馬術連盟公認1級審判、全国乗馬倶楽部指導員。

【到達目標】

各栄養素についてその特徴が理解できた上で、自身で飼料の組み立てに取り組めるようにその基礎となる知識と養分計算の仕方ができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　②栄養価の表し方(タンパク質、エネルギー)
2回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　③飼料と特徴(粗飼料と濃厚飼料)
3回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　④粗飼料の種類と特徴(牧草色、野草類、青刈作物他)
4回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　⑤粗飼料の貯蔵方法(乾草、サイレージ)
5回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　⑥濃厚飼料の種類と特徴(・穀類、大麦、トウモロコシ)
6回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　⑥濃厚飼料の種類と特徴(・穀類、エン麦、小麦、米、ヌカ、フスマ類)
7回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　⑥濃厚飼料の種類と特徴(・油粕類、製造粕類、動物質飼料他)
8回目	(4)飼料設計に必要な基礎知識　⑥濃厚飼料の種類と特徴(・配合飼料)　⑦飼料のスライド説明
9回目	(5)飼料の配合内容と給与量を考える　①飼養標準　②栄養価と単位　③給与量
10回目	(5)飼料の配合内容と給与量を考える　④豚の飼料給与を考える(練習例：繁殖育成豚)
11回目	(5)飼料の配合内容と給与量を考える　⑤馬の飼料給与を考える(給与日量、飼料内容)
12回目	(5)飼料の配合内容と給与量を考える　⑤馬の飼料給与を考える(例題問題：育成馬)
13回目	(5)飼料の配合内容と給与量を与える　⑤馬の飼料給与を考える(成長後の馬の場合、例題問題)
14回目	後期評価及び振り返り
15回目	まとめの話
準備学習 時間外学習	授業の最初に前回の振り返りをする為、各自ノートの読み返しをし、復習に努めること。
評価方法	筆記試験（80%）、授業内評価（傾聴力・発言力）（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

参考プリント、プロジェクター
参考書：社団法人 日本動物園水族館協会「新 飼育ハンドブック 動物園編 1 飼料」

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	植物 （ Plants ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	未定
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 （ 2 ）	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	未定

【授業の学習内容】

動物の餌としての植物・動物園の植栽としての植物として、時勢植物や園芸植物の生態を学ぶ。

【到達目標】

・植物の構造を理解する。
・動物の餌としての植物を理解する。必要な植物、危険な植物など。
・動物園における展示としての植栽の利用を理解する。

授業計画・内容	
1回目	授業における到達目標及び授業内容の確認、講師紹介
2回目	植物の種類、形態、分類、多様性①
3回目	植物の種類、形態、分類、多様性②
4回目	植物の無機栄養、基礎代謝、光合成①
5回目	植物の無機栄養、基礎代謝、光合成①
6回目	日本における主要な樹木について①
7回目	日本における主要な樹木について②
8回目	世界における主要な樹木について①
9回目	世界における主要な樹木について②
10回目	庭園などで栽培される植物について①
11回目	庭園などで栽培される植物について②
12回目	動物園における植栽の活用について
13回目	様々な展示方法（ランドスケープイマージョン、生態系展示など）
14回目	後期評価及び振り返り
15回目	植物に関わるまとめ
準備学習 時間外学習	授業の最初に前回の振り返りをする為、各自ノートの読み返しをし、復習に努めること。
評価方法	・筆記試験（80%） ・授業内評価（傾聴力・発言力）（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	企業プロジェクト (Company Project)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山本　雅一
		授業形態	演習	総時間 (単位)	60 (4)	開講区分	前期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日１～2、3～4時限

【授業の学習内容】

動物園や動物施設と共同で、イベントや企画、商品開発等を行う。プロのスタッフと共に企画運営を行い、働く上での重要な経験を得る。

※担当教員実務経験：ふれあい動物園ピクニカ共和国　園長。園内での動物園業務だけでなく、移動動物園も年間を通して多数実施。
動物の飼育だけでなくロープワークや工具の知識、動物園運営の知識も豊富。

・企画書が書けるようになる。
・実施計画書が書けるようになる。
・報告書がかけるようになる。
・企画予算を適正に出せるようになる。
・PowerPointでの発表資料が作れるようになる。

授業計画・内容	
1回目	企業プロジェクトとは　会社の種類と役割　動物園の運営形態の違いを調べ発表。 公立動物園・民間動物園の運営方法の違いを学ぶ。
2回目	国内外の動物園の特色を調べ、発表。国内の都道府県ごとの動物園をすべてリストアップする。
3回目	企画書作成　企業プロジェクトをシミュレーションし、企画書を作成してみる。
4回目	様々な物・事の値段を知る　見積書・予算書を作成する。
5回目	企画のプレゼンテーションを行う　融資を獲得するための企画を考える
6回目	前期企業プロジェクト　調査・企画立案
7回目	調査・企画立案
8回目	準備・実施
9回目	準備・実施
10回目	準備・実施
11回目	準備・実施
12回目	報告書作成
13回目	報告書作成　パワーポイント資料作成
14回目	期末テスト及び振り返り
15回目	テスト解説・前期のまとめ
準備学習 時間外学習	動物園・水族館・他動物施設の最新情報を常にチェックすること。
評価方法	・授業内評価(出席率・グループワーク参加度・企画立案力・資料作成力・プレゼン力・制作物作成力)100%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	企業プロジェクト （ Company Project）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	山本　雅一
		授業形態	演習	総時間 （単位）	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日１～2、3～4時限

【授業の学習内容】

動物園や動物施設と共同で、イベントや企画、商品開発等を行う。プロのスタッフと共に企画運営を行い、働く上での重要な経験を得る。

※担当教員実務経験：ふれあい動物園ピクニカ共和国　園長。園内での動物園業務だけでなく、移動動物園も年間を通して多数実施。
動物の飼育だけでなくロープワークや工具の知識、動物園運営の知識も豊富。

・企画書が書けるようになる。
・実施計画書が書けるようになる。
・報告書がかけるようになる。
・企画予算を適正に出せるようになる。
・PowerPointでの発表資料が作れるようになる。

授業計画・内容	
1回目	動物施設での企業プロジェクト実施先の選定
2回目	動物施設での企業プロジェクト実施先の選定
3回目	調査・企画立案
4回目	調査・企画立案
5回目	調査・企画立案
6回目	調査・企画立案
7回目	準備・実施
8回目	準備・実施
9回目	準備・実施
10回目	準備・実施
11回目	準備・実施
12回目	報告書作成
13回目	報告書作成　パワーポイント資料作成
14回目	期末テスト及び振り返り　発表
15回目	テスト解説・前期のまとめ
準備学習 時間外学習	動物園・水族館・他動物施設の最新情報を常にチェックすること。
評価方法	・授業内評価(出席率・グループワーク参加度・企画立案力・資料作成力・プレゼン力・制作物作成力)100%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	進級課題	必修選択	必修	年次	2	担当教員	村上　弘志
	（ Level Advancement Study ）	授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う

【到達目標】

学習成果（知識・技術）をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。

授業計画・内容	
1回目	進級課題とは①　～進級課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	進級課題の進め方　～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定　～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習①　～自分（班）のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習②　～途中経過の報告～
7回目	実践学習③　～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備①　～パワーポイント作成～
9回目	発表準備②　～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③　～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④　～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤　～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	進級課題の振り返り　～各自（班内）で意見交換、発表～
準備学習時間外学習	各自（各班）で意見交換を随時行う。また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	業界研修 （ Business Internship ）	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	90	開講区分	随時
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		（6）	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。
・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。
・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。
・自らの「キャリア」をデザインできる。

授業計画・内容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表（20%） これらを総合的に判断して評価

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	特別講義＆見学	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
	（ Special Lecture ）	授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。
学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。

※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・動物業界で必要な知識や技術を理解し、身に付ける。
・動物業界で必要な人間力を理解し、身に付ける。
・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。
・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。

授業計画・内容	
1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	イベント運営	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	村上　弘志
	（ Event Management ）	授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。
企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。

※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・企画立案、運営ができるようになる。
・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。
・接客を知り、実践できるようになる。
・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。
・予算管理を実践し習得する。
・スケジューリングを理解し、実践できる。

授業計画・内容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備（50%） ・レポート(50%)

【使用教科書・教材・参考書】

過去のイベント資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	特別課外活動	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各クラブ顧問
	（ Club Activities ）	授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学友会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。

【到達目標】

・チームワークを身に付ける。
・計画性を身に付ける。
・予算管理を身に付ける。
・マネジメントを理解し身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	ボランティア活動	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
	（ Volunteer Work ）	授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。

※担当教員：各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。
・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去のボランティア活動報告書

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	資格取得講座 (Seminar for a Qualification)	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	村上　弘志
		授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	動物園・動物飼育専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。

【到達目標】

・各検定試験、資格試験の合格

授業計画・内容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去の各検定、資格教本